

平成 27 年度

ふるさと教育かづの学 研究集録



秋田県立十和田高等学校

目 次

○ふるさと教育『かづの学』	校 長 石 川 弘 美	1
○ふるさと教育『かづの学』を終えて	生徒会長 畠 山 彬	1
○平成27年度 ふるさと教育（かづの学）全体計画		2
○ふるさと教育（かづの学）担当教員及び生徒一覧		3
○各講座の研究		
【伝統・文化】		
1 鹿角のむかしがたり		5
2 郷土の方言研究～「方言かるた」鹿角ヴァージョン～		7
3 鹿角の神社		9
4 鹿角地域の祭りについて		11
5 秋田の三大盆踊りを比べて		13
6 毛馬内盆踊りの笛と太鼓の研究		15
7 鹿角古代紫根染・茜染研究		17
8 かづの紫根染・茜染実習		19
【観光・産業】		
9 鹿角ブランドの経緯と可能性の模索について		21
10 鹿角発ブランド農産物の地域展開 ―「淡雪こまち」の生産構造と流通形態―		23
11 お土産品から考察する鹿角		25
12 統計からみる十和田湖観光の歴史		27
13 小坂鉄道レールパーク探求～レールパークの魅力を探る		29
14 鹿角にある店舗のホームページ作成・紹介		31
【スポーツ】		
15 スキーと駅伝のまち鹿角のルーツを探る		33
16 鹿角市におけるスキー振興について		35
17 スキーのまち鹿角の活性化		37
【人間・環境・福祉】		
18 鹿角地域の子育て支援の現状を探る		39
19 鹿角の福祉		41
20 鹿角の公害 ―主に煙害について―		43
21 ペットボトルキャップの行方と十和田高校		45
22 鹿角に若者が定着するには？		47
○平成27年度ふるさと教育（かづの学）公開研究発表会		
公開研究発表会スケジュール		52
当日の様子（写真）		53
生徒・一般参観者へのアンケートから		55

ふるさと教育『かづの学』

校 長 石 川 弘 美

地域の活性化に貢献できる生徒の育成を目指し、1 ふるさとの素晴らしさの発見 2 ふるさとへの愛着心の醸成 3 ふるさに生きる意欲の喚起 4 ふるさとについて発信する力の育成を4つの柱として始まったふるさと教育「かづの学」も2年目となりました。今年度は、さらに「純・剛・忍の精神のもと、地域を学び、地域を愛し、地域に貢献する人間」を本校の目指す生徒像として掲げ、さらに一歩進んだふるさと教育に取り組んできました。

十高ふるさと教育「かづの学」全体計画のもと、教科・分掌・学年・学校行事・生徒会活動・部活動などのすべての教育活動において、ふるさと教育の4つの目標を意識しながら実践をしてきました。特に、総合的な学習の時間では、22のテーマのもと、学年を縦割りとしたグループで調査研究をしてきました。詳細は集録を御覧ください。

その集大成として、平成28年1月19日に本校体育館でふるさと教育「かづの学」の公開研究発表会を開催しました。発表会では、11の口頭発表、10のポスター発表、実演を1つ行いました。それぞれのグループが創意工夫をし、真剣に発表できたと思います。ポスター発表は初めての試みでしたが、自分が関心のあるテーマを3つ選び、近い距離で発表を聞くことで活発なやりとりをすることができました。この発表は、鹿角の新たな魅力や課題を発見することに繋がりました。また、発表という体験を通して、生徒たちにコミュニケーション能力・表現力が身につく、さらには達成感を味わったり、自信がついてくれたことを期待しています。発表会には、地元の小中学校の校長先生方・保護者の方々・地域の方々・テーマごとに講師として指導してくださった方々・鹿角市の職員の方々など、多くの方々に参加していただきました。鹿角市総務部政策企画課政策監の阿部正幸氏から発表全体の講評をいただき、小中学校の先生方からは感想をいただきました。その中から、地域を活性化するためには高校生の力が必要であること、地域に貢献するためにもっと鹿角のことを知る必要があること、高校生の考えをもっと発信してほしいなど、今後の取り組みに対しての課題と多くの激励をいただきました。

来年度は、単なる調べ学習に止まらず、仮説を立て、実験や調査を通して検証し、結論を導いたり課題を発見するなどの追究型の取り組みを増やしていきたいと考えています。そのためにも生徒たちに、基礎となる知識・技能をしっかり身につけさせ、その上で思考力・判断力・表現力・他と協働する力を育成していきたいと考えています。

最後になりましたが、本校の取り組みに対して親身に御指導してくださった地域の方々、アンケートに快く協力してくださった方々、積極的に支援をしてくださったすべての方々に感謝の意を表しますとともに、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ふるさと教育『かづの学』を終えて

生徒会長 畠 山 彬

前年度にスタートした「かづの学」は、自分たちで選んだ講座に対して、計画を立て、実際に行動し、鹿角の自然や文化、歴史や現状とこれからを考えていく取り組みです。

1年間という長い期間の中で、学校を出て地域の方々からお話を伺ったり、外部講師を招いて教えていただいたりしました。その成果は公開研究発表会で広く発信し、さらに理解を深めました。皆様には、私たち十高生が活動してきた頑張りを本誌から感じ取っていただけたら幸いです。

1月19日の公開研究発表会では、スクリーンを使った発表や演奏、そして今年度から新しく企画された「ポスター発表」の3形態で鹿角の魅力について発表しました。ポスター発表の良いところは、発表者と傍聴者の距離が近いことです。その距離感を生かして、実演を披露する講座もありました。また、自分で興味を持ったブースを訪問するので、理解することへの満足度は高かったです。

疑問を持ち、それを解決することは、私たちがこれから生きていく上で大切にしていかなければならないことだと思います。ふるさと教育「かづの学」を通してこのような経験ができることは、恵まれた環境といえるでしょう。来年度も、さらに有意義な調査・研究を行っていけるよう頑張りたいと思います。

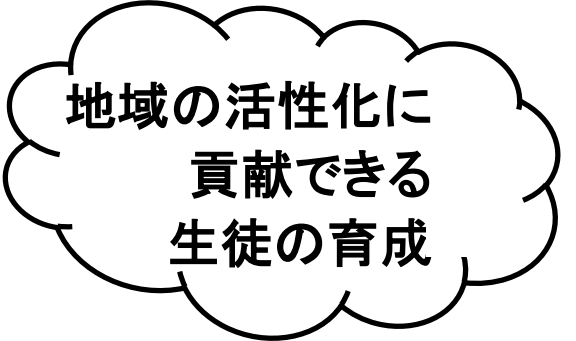
平成27年度 ふるさと教育(かづの学)全体計画

秋田県立十和田高等学校 校訓	
 純	純真謙虚な気持ちで人に接し、 青年としてまた生徒としてふさわしい気品のある態度で行動する。
 剛	正しい事である限り、敢然勇氣を以て当たり 何事に対しても不撓不屈の精神を以て努力する。
 忍	何事にも辛抱強く、 人に接するに仁を以てし、寛容の心を以て物事を処理する。

学校の教育目標
1 心身の鍛練と調和を図り、生き抜くたくましさの育成に努める。
2 全ての教育活動を通して、「純・剛・忍」の生徒像の涵養を目指す。
3 探究心と創造力を養い、基礎学力を向上し高等教育の習得を図る。
4 進路目標達成を目指して、社会変化に対応できる人材を育成する。

キャラクター


テーマ	教科の取り組み
鹿角の人物	・郷土の偉人について調べ、その偉業や作品について発表する。 ・郷土の方言について調べ、発表する。 ・ふるさとに縁ある五輪選手について学習し、体育理論を研究する。
鹿角の自然	・自然環境を調査し、生物学的に研究、発表する。 ・身近な地形の学習を通して、防災に対する意識を高める。
鹿角の産業	・農・鉱工業などを調査し、発表する。 ・毛馬内・花輪地区商店街を調査し、ホームページで紹介する。
鹿角の文化	・郷土の名所、名産、伝統行事などを英語で表現する。 ・鹿角の衣・食・住・文化・伝統を調査し、発表する。 ・郷土料理のルーツを探り、調理する。 ・鹿角の特産品を使った商品開発をする。



- 「ふるさと教育」目標
- 1 ふるさとの素晴らしさの発見
 - 2 ふるさとへの愛着心の醸成
 - 3 ふるさとに生きる意欲の喚起
 - 4 ふるさとについて発信する力の育成

テーマ	分掌の取り組み
勤労・奉仕・共働の精神の育成	・体験的活動に参加するのにふさわしい態度及び社会人になるための基礎的素養を身につける。 ・他者との協力や奉仕の精神、地域社会の一員としての自覚や、郷土愛を身につける。 ・儀礼的行事を通し、本校及びふるさとの伝統や良さを再認識する。
生徒の活動への支援	・毛馬内盆踊同好会の高文連発表会への参加を継続する。 ・生徒が参加する地域行事やボランティア活動を年間行事へ位置づける。 ・教科の年間指導計画においてふるさと教育を位置づける。 ・郷土の歴史や偉人に関する本の紹介をする。

総合的な学習の時間
22の講座を開設し、学年を縦割りとしたグループで調査研究を実施する。
＜平成27年度開設講座＞
1 鹿角のむかしがたり 2 郷土の方言研究
3 鹿角の神社と神楽 4 鹿角地域の祭り
5 毛馬内・西馬音内・一日市 三大盆踊りを比べて
6 毛馬内盆踊りの笛と太鼓の研究
7 鹿角紫根染・茜染研究
8 鹿角紫根染・茜染実習 9 鹿角ブランドの経緯と可能性
10 鹿角発農産物ブランドの地域展開(淡雪こまち)
11 お土産品から考察する鹿角
12 統計からみる十和田湖観光の歴史
13 小坂レールパーク研究
14 鹿角にある店舗のHP作成・紹介
15 スキーと駅伝のまち鹿角のルーツを探る
16 鹿角市におけるスキー振興について
17 「スキーのまち鹿角」の活性化
18 鹿角地域の子育て支援の現状を探る
19 鹿角の福祉の特徴と課題 20 鹿角の公害
21 ペットボトルキャップの行方を追う
22 鹿角に若者が定着するには？

各学年の取り組み	
1学年	・毛馬内盆踊り講習会を実施し、毛馬内盆踊りへ参加する。 ・職場体験学習で、地元の企業を見学する。
2学年	・修学旅行において、旅行先の文化や風土を学び、鹿角との相違点を見だし、地元の魅力を再確認する。
3学年	・郷土に関する事物の特徴を再認識し、郷土の文化を発信する。

学校行事
・毛馬内盆踊り講習会を継続実施し、毛馬内盆踊りへ参加する。 ・高文連郷土芸能・日本音楽合同発表会で披露する(毛馬内盆踊り)。 ・郷土の偉人、著名人による講演会を行う。 ・ふるさと教育の成果を十高祭で公開する。 ・体験入学で、中学生と鹿角についてパネルディスカッションを行う。

生徒会執行部
・生徒会行事において、ふるさと教育に関する企画・運営を行う。 ・学校新聞、生徒会誌、生徒会だより等に郷土の情報やふるさと教育に関する生徒の活動を掲載し広報活動を行う。

代表者 2A 工藤 愛生
指導者 吉岡 藤美

I テーマ設定の理由

「伝説の里・鹿角」と言われるように、鹿角地区には民話や伝説が多い。民話の中の昔話である「むかしっこ」で200話ほど、それに100話を超える伝説があるという。「だんぶり長者」や「錦木塚伝説」などは鹿角内外にも知られるところである。

そこで、私たちは、ふるさと鹿角に伝わる昔話を調べ、実際に語ることを通して「鹿角」という地域の文化や伝統を継承していきたいと思い、このテーマを設定した。

II 実施計画

- 1 鹿角に伝わる昔話を調べる
鹿角に伝わる昔話を調べ、内容や傾向を探る。
- 2 鹿角民話の会「どっとはらえ」の講師による実演
(6/23)
- 3 テキストの中から自分が語る民話を選択し、各自で練習 (7月～)
- 4 鹿角民話の会「どっとはらえ」の講師による指導
(10/20)
- 5 地域の老人福祉施設で語りを披露
(10/27)
- 6 反省・まとめ (11月～ 1月)

III 実施内容

1 鹿角に伝わる昔話を調べる

まず、学校の図書館にある『陸中の国鹿角のむかしっこ』という本を使って、鹿角地区にはどのような昔話があるのかをメンバーで手分けして調べた。

調べてみると、全く知らないもの（鹿角特有の話か？）もあれば、聞いたことのある昔話の鹿角バージョンとでもいうような話（方言で語られているため）もあることがわかった。

鹿角に伝わる昔話といっても、すべてが鹿角オリジナルというわけでもないらしい。

また、昔話に動物はつきものなので、収録されている72話について、登場する動物の種類と数

を調べてみた。登場する動物は、狐、蛇、猿、猫、かつこうなどの鳥類などで、中でも一番登場率が高いのは「狐」であることがわかった。（72話中14話に狐が登場している。）意外なことに「狸」は登場していない。人をだますといえ、ば、「狐」か「狸」かといわれる中で、圧倒的に「狐」が多いということから、この地域で身近な動物は「狸」より「狐」だったといえるのではないだろうか。

2 鹿角民話の会「どっとはらえ」の講師による実演

6月23日、本校図書館を会場に、鹿角民話の会「どっとはらえ」の阿部益栄会長、沢田欣之氏、佐藤友信氏のお三方を招き、「鹿角のむかしっこ講座」と題して、昔語りの実演をしていただいた。

この日、語っていただいたのは

- ・ねこじゃおどり（佐藤友信氏）
- ・ドドの虎の話（阿部益栄氏）
- ・錦木塚伝説（沢田欣之氏）

であった。普段使うことのない方言で語られるため、生徒たちは聞き取るのに精一杯という感じであったが、声のトーンや身振り手振りで聞く人を民話の世界に引きずりこむテクニックは、大いに参考にすべきところがあった。



参考文献:『陸中の国鹿角のむかしっこ』
(鹿角市 平成3年)

3 テキストの中から語る民話を選択し、各自で練習をする

7月に入り、テキストとして使用している『陸

[illegible]

4 鹿角民話の会「どっとはらえ」の講師による指導

人前で語るのは皆初めてだったので、どうしても早口になりがちだった。やはり、そこを一番指摘された。暗記もまだ不完全な状態だった。この日、阿部会長さんから受けたアドバイスは以下のとおりである。

- 民話のような口承文化では、聞く方は今このときしか聞けないと思うから、聞き逃すまいと真剣に聞いたものだという。だから、語る方はしっかり聞き取れるようにゆっくり語るところからはじめなければならないのだそうだ。

10月27日、いよいよ「北の郷」で実演をするその当日がやってきた。学校の図書館で少し練習をしたあと、ジャンボタクシーで一路「北の郷」へ向かった。

- 1 舌切り雀（工藤環奈・工藤愛生）
- 2 狐につかれた話（金澤志歩）
- 3 鬼退治（中村康平・阿部翔馬）
- 4 かつこう鳥の話（目時実夢）
- 5 猿とり地蔵（勝田千尋・坂井蓮実）
→ 残念ながら、当日欠席
- 6 よしこ沼（湯沢直生）



実演後、反省会を開いた。そこでは、よかったところとして「強弱などを工夫してできた」「暗記してできた」「大きな声でできた」などという点、悪かったところとして「十分に練習したと思っていたのに、本番に早口になってしまった」という点があげられた。

私たちの取り組みは「昔話を方言で語る」ということであった。短い話なら暗記しやすいと思って選んでも、実は方言の部分で不明なところがあったりし、そこを確認しないまま暗記に取りかかってしまったのは大いに反省すべき点である。

- 6 -

【伝統・文化】2 郷土の方言研究 ～「方言かるた」鹿角バージョン～

発表者 3A 柳沢 悠那

指導者 齊藤 恭子

はじめに

この鹿角の地で育まれてきた「鹿角弁」は地域に根付いたことばである。方言には、何とも言えない温かい響きを私たちに感じさせたり、なんでもない一言がある瞬間を目の前に浮かび上がらせたり、そして、人と人との距離を一気に近づけさせたりすることもある。

I テーマ設定の理由

鹿角に住んでいる若者は鹿角のことばがわからなく、いつも共通語を用いている現状にある。一方で、おじいちゃんやおばあちゃんを中心に日々の生活の中では用いられているこの「鹿角のことば」の魅力を、是非、十和田高校生だけでなく地域の方々にも伝えたいと考えている。

そこで、まずこの鹿角にはどのようなことばがあるかということを知ることが大切だと考え、テーマを設定した。

II 実施計画

- 1 全体オリエンテーション
テーマごとのオリエンテーション
- 2 「かづの若者会議」の方による講話
- 3 語り部における「むかしっこ」
- 4 「方言かるた」の作成
- 5 発表会に向けて

III 実践内容

1 オリエンテーション

- (1) 全体オリエンテーション
十和田高等学校体育館において、全校生徒を対象とした「ふるさと教育の概要」の説明を受けた。
- (2) テーマごとのオリエンテーション
前回の「全体オリエンテーション」を受

けて、「方言」と「共通語」の違いや「方言」の意義について説明を受けた。

2 「かづの若者会議」の方による講話

「みんなして鹿角ことばでかるたつぐるすべ」という応募用紙を糸口に、十和田高校生による「方言かるた」の作成を試みることにした。

そこで、この地域で先駆けて方言かるたを作成している「かづの若者会議」から、あーきーさんこと阿部朗人さんを十和田高校にお迎えし、ご自身の方言に対するイメージの変化やそれまでに応募があった「かづの弁かるた読み札」の紹介、「おもへえかづの弁かるた」の行方についてご講話いただいた。



3 語り部における「むかしっこ」

実際に語り部の方々から「むかしっこ」を聞くことによって、方言の多様性や方言を発音することの難しさに改めて気づいた。

4 「方言かるた」の作成

まず、23人いるメンバーを5つのチームに分けた。

次に、チームごとに日本語の「50音」を2行ずつ、例えば、ア行とカ行は2年生女子3人、などのように分担し、それぞれの音で始まる方言を出し合ってみた。候補がいくつかある音の場合には、それぞれのチームごとにかかるたとし

て作成するのはどの「鹿角弁」にするのか、検討した。このように「方言かるた」を作成していく中で、今まで見たことも聞いたこともないことばに出会い、中には同じ意味を表すことばであっても「十和田」や「大湯」、「花輪」などの地域によっては微妙な違いがあることに改めて気づくことができた。ただ、方言辞典や方言に関する書物、コンピュータを駆使してもなかなか方言を探すことのできない音もあり、担当したチームは大変苦勞していた。そこで、それぞれの音で始まる方言を見つけ出すことが出来なかった「り」と「る」については、方言が含まれていれば良いということにした。また、「も」のように、「もらってぐよ」も、「ふくろもんずら」の「もんずら」も、鹿角弁である場合があることを付け加えておきたい。

そして、チームごとに趣向を凝らしながら「文字だけの読み札」と「絵だけの取り札」をそれぞれ作成し、「方言かるた鹿角ヴァージョン by 十和田高校」が完成した。

是非、私たちが作成したすべての「方言かるた」を1枚1枚じっくりご覧ください。



「方言かるた」の一部

5 発表会に向けて

私たち「郷土の方言研究」グループはポスター発表をするため、発表は3年、2年、1年にわけて行うことにした。まず、3年生が中心となり、発表時間にあわせて内容をまとめ、発表会では成果を発表できるように取り組んだ。次に、実際に発表会で披露する「方言かるた」をポスターや色画用紙にまとめるメンバーも必要となった。そして、「方言かるた」ではないものの、実際に地域の行事である「新春カルタ大会」に参加したメンバーもいた。

IV 評価（まとめと今後の課題）

私たち「郷土の方言研究」グループは、この鹿角にはどのようなことばがあるかということを知るための手がかりとして「方言かるた」を作成した。

その中で、自分たちが共通語だと信じていた「しゃっけ!」や「～だすけ。」などのことばが実は鹿角弁だったということに初めて気づき、とても驚いたこともあった。

また、私たち一人ひとりが生活に根付いたことばを用いることで、いかに相手によりよく自分の気持ちを伝えることができるか、もともとのことばの持つ意味合いや用いられた場面を想像しながら、状況にあわせて共通語や方言を使い分けて話すことも大切なのではないだろうか。

是非、この「方言かるた」に触れることで全校生徒のみなさんにも鹿角のことばの魅力を十分に味わっていただき、そして日常の様々な場面で方言を使うためのきっかけにしてもらいたい。

今後は、日々の生活の中で用いられているこの「鹿角のことば」の魅力を、「方言かるた」を用いながら十和田高校を始め地域の方々にも伝えていきたい、と思っている。そして、「鹿角のことば」をこれからも残していくためには、実際に高齢者の方々と「方言かるた」をもとに語りあったり、「方言かるた」を用いて地域の子どもたちと遊んだりする機会を持ちながら、さらに方言の持つ魅力に触れていくことが今後の課題である。

代表者 3A 田口 洸
指導者 小林 稔幸

はじめに

昨年度、秋田県内各地で行われた国民文化祭では、多くの来客のもと盛大に行われた。地元鹿角では、「小倉百人一首かるた競技全国大会」と「神楽フェスティバル」が行われた。「神楽フェスティバル」には、ユネスコ無形文化遺産登録の大日堂舞楽など7県10団体が参加し、伝統の舞が披露された。毎年正月2日に奉納される大日堂舞楽には、数多く訪れる参拝客を魅了している。

この他にも、鹿角地域には、河原太神楽、大湯ばやし、下河原駒踊など神社に関わる祭礼が多く受け継がれている。そこで、それらの祭礼と神社を調査することで、ふるさとの素晴らしさを発見し、愛着心をもって地域行事に参加できるようになりたいと考えた。

I テーマ設定の理由

鹿角の神社を調査するにあたり、『神社のいろは』（扶桑社）を読み、神社の基礎知識を学んだ。ここで、神社の構造、参拝方法、日本の神々などの基本的なことを学び、そこから各班員が関心をもったことを調査していくこととした。

十和田高校の所在する毛馬内地区には特級社月山神社が鎮座して、地域の住民から厚く信仰されていることから班員全員の研究対象とした。

また、毎年7月12・13日の例大祭には毛馬内商店街に露天商が並び、多くの来客のもと盛大に行われているが、それが神社に関わることであることを知り、例大祭に参加して詳細を調査することにした。

また、各班員が調査しやすい自宅周辺の神社を回り、データを集め、地域の神社への理解を深めることとした。3年生は、強歩大会で大湯川流域に数多くの神社が点在していたことに注目し、できるだけ現地調査し、その実態や景観を調査することにした。

II 実施計画

1 事前学習

- (1) テキスト『神社のいろは』による基礎知識

- 1) 神社の配置（鳥居・本殿・拝殿）
- 2) ご祭神
- 3) 参拝方法
- 2 月山神社（里宮）の現地調査
 - (1) 境内の構造配置・景観
 - (2) ご祭神
 - (3) 参拝
- 3 月山神社総代会責任役員の豊口秀一氏による講話
- 4 月山神社例大祭への参加
 - (1) 奥宮本殿での例大祭参加
 - (2) 川原大神楽奉納
 - (3) 神輿行列への参加
- 5 各班員の調査活動
 - (1) 鳥居とは
 - (2) ご祭神
 - (3) 神楽と雅楽
 - (4) 月山神社例大祭
- 6 大湯川流域の神社の調査

III 実施内容

1 事前学習

- (1) テキスト『神社のいろは』による基礎知識
 - 1) 神社の配置（鳥居・本殿・拝殿）
 - 2) ご祭神
 - 3) 参拝方法

2 月山神社（里宮）の現地調査

- (1) 境内の構造配置・景観
- (2) ご祭神
- (3) 参拝



3 月山神社総代会責任役員の豊口秀一氏による講話



4 月山神社例大祭への参加

(1) 本殿での例大祭参加



代表による玉串奉納



津島正司宮司のお話

雅楽器の説明

(2) 川原大神楽奉納



(3) 神輿行列への参加



神輿巡幸とルート

5 各班員の調査活動

- (1) 鳥居の分類
- (2) ご祭神
- (3) 雅楽と神楽
- (4) 月山神社例大祭



6 大湯川流域の神社の調査

- (1) 鳥居の形式
- (2) 本殿の方角
- (3) 参道
- (4) 本殿の立地
- (5) 本殿の造り

IV まとめと今後の課題

- (1) 鳥居について～鳥居は単なる神社の装飾ではなく、神聖な神の領域を表す結界みたいなもので、神聖なものだとわかった。鳥居には数多くの種類があり、朱色にも意味があることが分かった。今後はさらに調査事例を増やしていきたい。
- (2) ご祭神について～日本では多数の神が祀られていることが分かった。私達が調査した中では、保食命(ウケモチノカミ)が多く祀られており、穀物・五穀豊穡がこの地域にとって重要なことで、それについて祀られていることが分かった。
- (3) 雅楽と神楽について～雅楽と神楽に違いや雅楽器の特色を知ることができた。今回は月山神社の神楽や川原太神楽だけだったが、大日堂舞楽などほかの神楽なども調査したい。
- (4) 月山神社例大祭について～実際に参加して、地元の人達の祭りを大切にする思いは熱く、私達が引き継いで行かなければならないと思った。今までは露店だけを楽しんだが、玉串奉納や神楽見学を通して地元にながら初めて分かったことが多かった。
- (5) 鹿角の神社について～鳥居は神明と明神が多く、本殿は大社造りと神明造りが多かった。これは、日本の一般的な神社の形式と考えられる。本殿の方角は東向きが多かったことから、太陽の昇る方角が関係していると考えた。立地は、平地が多く、地域の人が参拝しやすいように建てられたのかもしれない。今回は18社をだけだった、調査事例を増やして、鹿角の神社の特色を示していきたい。

参考文献 『神社のいろは』扶桑社

『特級社月山神社創建千貳百年大祭記念誌』

代表者 3B 高田 雅也

指導者 土門 祐子

はじめに

鹿角地域は昔ながらの伝統文化が大切に継承され、色濃く残っている地域である。祭りや地域の行事は長い間、それぞれの伝統を継承しながら現代に至っている貴重な民族文化遺産である。先人から引き継いで現代でも続けられているその地域の大切な文化遺産を、私たちが次の世代へとしっかりと橋渡ししていく必要がある。小さい頃から慣れ親しんでいる祭りについてもその歴史や由来など知らない部分がたくさんある。ぜひこの発表を機に、地域文化への理解をもっと深めて、伝統文化を大切にしていってほしいと思う。

I テーマ設定の理由

鹿角地域には昔からの伝統が色濃く残っている祭りが多く存在する。普段、毎年の夏祭りなどでは、その祭りがいつから始まったのか、何のために祭りを行っているのかなど、それほど深く考えることなしに友人や家族と一緒にお囃子や盆踊りを見て、屋台が並んだ通りを楽しく歩いている人が多いと思う。

しかし、これまで昔の人たちが大切にしてきた地域の祭りを次の世代に受け継いでいくのは地域に住む私たちの役割である。そのためには小さい頃から慣れ親しんだ祭りや盆踊りについて正しく理解し、知識を増やしていくことが必要だ。その歴史や特徴について知ることで、より地域の文化に親しみを持ち、誇りを持って受け継いでいくことができると思った。

II 実施計画

- 1 全体会とテーマ別オリエンテーション
(5月12日)
- 2 テーマとグループ決め
(5月26日、6月9日)
- 3 グループ毎の調べ学習
(6月23日、7月14日)
- 4 祭りへの参加・見学
(7月12日、8月7～8日、19日、21～23日)
- 5 鹿角どごさデモ出前講座(10月6日)
- 6 グループ学習のまとめ
(10月20日、27日、11月10日)

7 発表原稿の作成

(12月3日)

III 実施内容

1 花輪ばやし…2A 豊田 浩貴(班長)

佐藤 貴広 湯沢 泰羅

2C 中条 いづみ 関 彩美

1A 畠山 香 1C 佐藤 夏絵

花輪の総鎮守、幸稻荷神社に奉納される祭礼囃子。幸稻荷神社は土地の守り神「産土神」として古くから地域の信仰を集めてきた。平安時代末期、都からこの地方に流れてきた貴人の笛の曲に、太鼓・鉦、三味線がついて現在の祭り囃子に転化したと考えられている。

現在の祭りの屋台は十町内ともすべて、囃子の演奏者が歩行する「腰抜け屋台」と呼ばれるものだが、かつてはこの屋台の他に、「本屋台」と呼ばれる二階建ての屋台と「飾り山車」と呼ばれていた屋台の3種類があった。豊作の年は「本屋台」で演奏し、平年作の年は「腰抜け屋台」で演奏する習わしだった。

残念ながら現在、本屋台は保存されていない。

囃子とともに囃子手が乗るこの屋台は、囃子手の演奏とともに祭りの主役といえ、豪華な囃子屋台が町中を練り歩き、鹿角地方の素晴らしい民俗文化遺産のひとつとなっている。



花輪ばやしの豪華絢爛な囃子屋台

2 花輪ねふた…3B 高田 雅也(班長)

1A 梅津 航洋 木村 漠
梅戸 未来

花輪ねふたは平成25年5月28日に鹿角市指定民俗文化財となった。

ねふたは七夕祭りと呼び流しが習合したもので、七夕は本来「先祖霊」を意味する。眠り流しは「一年の前半の忌み穢れを払い、悪霊を盆前に消し去る」行事である。花輪の古老は七夕を「七日盆」、花輪ばやしを「二十日盆」と呼んでおり、8月の重要な行事として捉えている。

8月7・8日の両日に大灯籠（王将ねふた）と大太鼓が町内を運行し、8日、稲村橋で灯籠に火が放たれ忌み穢れを払う。伝承曲として「七夕」「大の坂」があり、創作曲として「田道」「鎧」「槍」がある。

いつごろから行われていたかは不明であるが、「鹿角方言考」（大里武八郎著）の記載から、すでに明治初期には行われていたようである。「ケンカ祭」とも言われたようであり、警察から中止命令がでたこともある。



町を練り歩く花輪ねふたの大灯籠

3 毛馬内盆踊り…2A 刈谷 陽希(班長)

1A 成田 莉奈 大森 夢月

毛馬内盆踊りは平成10年12月16日に重要無形民俗文化財に指定された。

永禄8年（1565年）から11年（1568年）にかけて安藤愛季（あんどうかちすえ）が鹿角に攻め入り、南部信直が三戸から出陣し、安東氏を領外に追い払った。そのときに将兵を労い踊ったのが最初で、「陣後踊」や「陣後唄」といわれている。

秋田県三大盆踊り（西馬内の盆踊り、一日市盆踊）に数えられ、大太鼓と囃子で踊る「大の坂」

と、無伴奏の唄のみで踊る「甚句」で構成される。

「大の坂」は京都の念仏踊りの流れを汲むという説がある。昭和初期までは唄が附属していたが、唄い手が途絶え、現在は太鼓と笛の囃子だけで踊っている。

「甚句」は前述の通り、兵士を労ったのが始まりで、歌詞は豊作を祝うもの、郷土の風物等を紹介するもの等が多く唄われている。唄の種類は60種類以上もある。

「大の坂」も「甚句」もかがり火を囲んで踊る輪踊りで、常に内側を向いて優雅に踊るのが特徴である。

女性の衣装は色紋付にトキ色のケダシ、頬褌が正装である。指先・つま先まで行き届いた仕草はしなやかで、かがり火に照らされた踊り子は実に優雅である。



毛馬内こもせ通りでの太鼓の演奏の様子

IV まとめと今後の課題

今回のふるさと学習では、花輪ねふた、花輪ばやし、毛馬内盆踊りの3種類の祭りについて調査することができた。

この3つの大きな祭り以外にもまだまだ鹿角地域には多くの祭りやお囃子など大小さまざまな伝統行事が各市町村で継承されている。今後は他の祭りにも目を向け調査をしていきたい。

代表者 3B 桜庭 宝
指導者 佐々木 大輔

I テーマ設定の理由

地元に秋田の三大盆踊りとして知られる毛馬内盆踊りがあるので、他の秋田の三大盆踊りである一日市の盆踊り、西馬音内盆踊りを調べ、毛馬内盆踊りと比較することで、鹿角ならびにふるさと秋田の理解が深まるのではないかと考えこのテーマを設定した。調査するにあたってはインターネットを使わないことを約束とした。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 各盆踊りの調査（図書室）
- 3 各盆踊りの調査（校外図書館）
- 4 各盆踊りの調査（映像資料）
- 5 比較してみる
- 6 発表準備
- 7 発表会

III 実施内容

1 各盆踊りの調査

学校の図書室や地域の図書館等を利用し、各盆踊りについての特徴や歴史について調べるとともに、映像資料等で実際の踊りを見てその特徴を調べた。

(1) 毛馬内盆踊り

毛馬内盆踊りは鹿角市十和田の毛馬内で踊られており、毎年8月21日～23日の3日間開催されている。国の重要無形民俗文化財に指定されており、2つの踊りで構成されている。太鼓と笛の囃子のみで大の坂踊が踊られ、続いて無伴奏で、七・七・七・五調章の唄のみの甚句踊が踊られる。毛馬内盆踊りの大きな特徴は3つある。

1つめは衣装だ。昔からタンスの底を着ると言われ、その家の1番良い着物を出し、きらびやかに踊る。昔の金持ちは毎年盆踊

りのために衣装を新調し、その年の金持ち番付は踊り衣装の枚数で決まったとも言われている。

2つめはほおかむりだ。豆絞りの手ぬぐいを頭から被り、目と鼻を出し、口を塞ぎ、男性なのか女性なのか、階級が高い人なのか低い人なのか解らなくしている。これは地主も小作人も盆踊りのときは無礼講で、身分の隔たり無く皆で楽しく踊ろうということで、ほおかむりがされるようになったとも言われている。

3つめは太鼓だ。約30kgある太鼓を打ち手と持ち手の二人がかりで叩く。また太鼓も踊りの輪の中に入り歩きながら叩くため、一節叩くのに200m全力疾走するほどの体力を使うと言われている。太鼓に使う革にも特徴があり、一般的な牛の皮ではなく、毛馬内は南部藩時代、軍馬の馬産地として有名であったため馬の皮を使っている。

(2) 一日市の盆踊り

一日市の盆踊りは、八郎潟の一日市上町商店街の通りで踊られており、毎年8月18日～20日の3日間開催されている。様々な姿・格好に扮した踊り手や飛び入りを含めた多くの踊り手が盆踊りを披露し、それを数千万人の見物客が取り囲む。

3つの踊りで構成されている。1つめは三勝踊りで、ゆっくりとしたテンポで優雅な振りは、上品な感じをうける。片足で立つ時間が長く、足の上げ方や手の返し方などは、秋田音頭にも通じるところがある。

2つめはキタサカ踊りで、お囃子から取った名称である。足の動き、手の振り方が右へ左へ、右へ前へと優雅に舞う踊りで、同時に袖が美しく揺れ動く様を見せつけ

られ、江戸時代初期の風流踊りの影響だと考えられている。

3つめはデンデンヅク踊りだ。太鼓の擬音そのまま踊りの名になったもので「ダイダイヅク」や「ダガシコ」などとも呼ばれている。

(3) 西馬音内盆踊り

西馬音内盆踊りは羽後町西馬音内で踊られており、8月16日～18日の3日間開催されている。およそ七百年前に始まったとされ、高い芸術性を有するとして国の重要無形民俗文化財にも指定されている。

編み笠や彦三頭巾で顔を隠し、艶やかな端縫いや藍染めの衣装を纏った踊り手たちが特徴だ。しなやかな手振りと足運びが織り成す振りは魅惑的なものを感じるとともに、豊かな実りを願い、祖霊たちと一体となり、一心不乱に踊る様が見られる。

西馬音内盆踊りの起源・沿革については全て言い伝えによる記録となっている。また、大正年間に、西馬音内盆踊りに対して、警察当局が「風俗を乱すもの」として弾圧され、一時は非常に衰えた。しかし、西馬音内盆踊りの復興を強く望む住民感情が高まり、地主の中にも私財を投げ出してまで復興を望む人々があつたようで、数年後には、元のように盛んになったそうだ。

2 盆踊りを比べてみて

毛馬内盆踊りと比べ、他の盆踊りはどのような特徴があるかまとめた。

(1) 特徴について

一日市の盆踊りは様々な姿・格好に扮して踊り、仮装してのお祭りのようにも思える。特徴的な編み笠や彦三頭巾で顔を隠して踊る西馬音内盆踊りは、艶やかさを感じる。

また、一日市の盆踊りでは毛馬内盆踊りと同様、笛と大太鼓で演奏されるが、西馬音内盆踊りでは他に鈴や小太鼓も使われており、賑やかな印象を受けた。

(2) 踊りについて

一日市の盆踊りは「ノリが良い」という

感想だ。とくにキタサカ踊りはアップテンポな流れに楽しさを感じ、デンデンヅク踊りも早いペースながらも、その踊りに美しさをもっている。飛び入りで踊る人も多くいるのは、このノリの良さも要因の一つになっているのだと思った。

西馬音内盆踊りは「テンポが速くも優雅」という感想だ。また曲調と踊りのテンポの兼ね合いが絶妙なのも、よりいっそう踊りに美しさを感じさせるのではないかと。振りも他の盆踊りより大きく動くようだ。

IV まとめと今後の課題

秋田県の三大盆踊りを調べ比べてみることで、三者三様、各々に特徴があることがわかった。同じ盆踊りでも見ていて飽きないのは不思議と魅力的に感じた。また毛馬内盆踊りは他の盆踊りに比べ、緩やかなテンポであることがわかった。比較することであらためて、その良さに気づくこともある。開催時期も被らないので、毛馬内盆踊りを足がかりに、三大盆踊りツアーなどを計画しても面白いのではないかと考えた。県内に重要無形民俗文化財に指定されている盆踊りが2つもあるのは、他に静岡県の有東木の盆踊りと徳山の盆踊り、岡山県の大宮踊、白石踊だけである。是非この三大盆踊りを合わせてPRすることで、文化の継承と観光客の誘致をはかっていけたら良いと思う。

V 参考文献

・祭りの事典

【佐藤和彦 保田博通編 東京出版】

・秋田県の歴史散歩

【秋田県の歴史散歩編集委員会編 山川出版】

・秋田の祭り・行事

【秋田県教育委員会編 秋田文化出版】

・DVDでまなぶ・おぼえる

秋田県八郎潟町 一日市盆踊り

秋田県鹿角市毛馬内 毛馬内の盆踊り

・教則用DVD 西馬音内盆踊り

代表者 3C 下山 泰司

指導者 濱松 崇子

はじめに

鹿角地区には短い夏を惜しむかのように数々の夏祭りがある。中でも楽器が使用されるお祭りとして、8/19～20に花輪囃子、8月初旬の土日に小坂七夕、8/15に大湯大太鼓、8/21～23に毛馬内盆踊りなどが挙げられる。

十和田高校に一番身近な夏祭りである「毛馬内盆踊り」では、踊りだけでなく笛と太鼓を習得してみたい、演奏面で盆踊りを支えたいと思う生徒も少なくない。

I テーマ設定の理由

秋田県鹿角市十和田毛馬内に位置する本校では、1年次で全員が毛馬内盆踊りの踊り方2種類を習う。これが何年もの間に渡って伝統として本校に引き継がれてきているので、今では全校生徒が一度は踊ったことがあり、また踊りに使用される曲も一度は耳にしたことがあると言える。

本校には他地区から通学する生徒も多く、できるだけ多くの生徒に、伝統ある毛馬内盆踊りに親しんでもらいたい、その伝統を引き継ぐ人材を担ってもらいたいという願いがある。

昨年に引き続きこのテーマを設定したのは、踊りだけでなく、笛や太鼓の演奏に興味関心を持つ人材をさらに育成できないかと考えたからである。踊りに比べて、技術や練習量が必要である笛と太鼓の演奏にじっくりと挑戦させてみたいと思いこのテーマを設定した。



II 実施計画

全11h

- 1 オリエンテーション、希望調査…1h
- 2 笛班・太鼓班ごとの演習…8h
- 3 発表会に向けての合わせ練習…2h

III 実践内容

- 1 オリエンテーション、希望調査、練習内容について

	笛	太鼓
毛馬内盆踊りの楽器経験者	0	2
他地区同楽器経験者	3 (※1)	7 (※2)
類似楽器経験者	フルト: 2	打楽器: 0
未経験者	3	3

※1 内訳～花輪囃子2・小坂七夕1

※2 内訳～花輪囃子2・大湯大太鼓2

・山根太鼓1・万谷太鼓1・小坂七夕1

※複数回答あり

2 笛班・太鼓班ごとの演習

(1) DVD鑑賞

昨年度冬に花輪スキー場で行われたスキーインターハイにおいて、本校毛馬内盆踊り同好会が発表したときのDVDを鑑賞した。笛の旋律を覚えること、太鼓のリズムを覚えることを目的に鑑賞し、併せて伝統芸能が作り出す重厚な空気感を感じることができた。

(2) 演習

笛の練習の第一歩として音が出ること、これがクリアできず苦勞した。笛の保存会の楽譜を読んで、曲を覚える、実際に吹く、は一朝一夕では成立しない。一方太鼓は、見よう見まねで机をたたき、を試したが、地区の練習で使われている「ダン・コウ・ダン・コダダンコ・ダン…」という、日本音楽の伝承でよく使われている練習方法＝口唱歌（くちしょうが）で覚える

のが結局は一番効果のある方法であった。

3 発表会（1月19日）に向けての練習

（1）曲の難易度、笛と太鼓の難易度の差

1）大の坂

この曲の笛の楽譜は3部構成になっている。いわゆる変奏曲のかたちで3つの部分が似ているが少しずつ違う箇所がある。倍音で変化をつける、トリルのような細かい技術で変化をつけるなど。レベルに応じて曲の雰囲気を変えず演奏することも可能だ。初心者でも1部分目は2時間ほどで覚えられるので、音さえ出れば楽しんで取り組むことができる。吹くのにちょっとしたコツが必要だが、高い音域の方が笛らしい音色でよく響き気分がいい。多くの生徒は低い音域で吹いていた。

一方太鼓のリズムは、至って単純明快、簡単すぎる。1つの曲を延々と繰り返す。ただし間合いや叩き方、腕の振り方までを揃えて味わえるようになるにはかなりの練習が必要だ。

2）大拍子

この曲の笛の旋律は複雑で長い。大の坂に比べ規則性が少ないため、まず曲を覚えなければならない。同じく太鼓も、リズムが複雑で尚かつ打つ手も決まっており、それを正しく再現するのにかなり時間を要するが、動きが揃うと見た目も美しく音も揃ってきれいに聞こえる。

（2）合わせの練習

笛班だけで練習をしていると太鼓との絡み方が分からない。そこで笛と太鼓の合わせの練習をしたが改めて曲の難しさを感じた。また「返し」といって繰り返す方法が笛と太鼓では少々異なっていた。限られた時間内で発表するのでそれらを統一する作業も必要とした。

4 高校生と鹿角地区の夏祭り

せっかく出逢った毛馬内盆踊りではあるが、実際はそれほど規模が大きくなく観覧する客の人数や年齢層は限られていると感じる。高校生は何を求めて夏祭りに行くのか。

受講生徒16人を対象に簡単なアンケートを試みた。

		A	B	C	D
問1	毎年行く	7	4	0	1
問2	行けたら行く	7	0	2	0
問3	まだ行ったことがない	0	7	5	3

問4	見て楽しい	12	5	0	0
問5	味わい深いと感じる	12	3	4	0
問6	あまり興味がわかない	0	0	11	1

注) A 花輪ばやし B 小坂七夕

C 毛馬内盆踊り D 大湯大太鼓

※複数回答あり

毛馬内盆踊りとよく行かれるお祭りとを比べると、高校生は「変化」「煌びやかさ」「出店」をお祭りに求めているのかもしれない。

IV 評価（まとめと今後の課題）

〈まとめ〉

笛班では音が出るまで最長で5時間程要した生徒がいた。保存会の方からいただいた楽譜があったが、これにばかり頼るのではなく、やはり何度も聴く、吹くの作業を繰り返し体で曲を覚えた方がいい。太鼓班も同様で、リズムや左右の手の使い方、手を振り上げる位置や角度など、一朝一夕ではできるはずもなく、これもやはり繰り返し練習することが一番効果的である。

太鼓については、リズムが独特で複雑なものであったため、リズムの習得にかなりの個人差が見られた。楽譜に起こしてそれを見ることによって簡単に覚えられないかと試行錯誤したが、こればかりは聴いて実際に叩いての繰り返しが最良と感じた。地域で用いられている練習法「口唱歌＝ダン・コウ・ダン・コダダンコ・ダン…」がやはり一番の方法だと気づいた。

〈今後の課題〉

笛班：笛としての音が出るまでの個人差が大きい。そこから曲を覚えるのでは週に1時間や2週に1時間では間に合わない。

太鼓班：太鼓の数や保管場所、運搬方法に制限があるので全員が思うような練習ができなかった。十和田高校内の保管場所にも限りがあり、出し入れのし易さや施錠などの安全性を考慮するとこれもまた難しい。定期的な練習時間を学校で設定するのは困難な状況である。学校としては保存会の紹介や練習会の紹介にとどまらざるを得ない。

代表者 2A 阿部 瑛天

指導者 奥山 幸

はじめに

古代紫根染・茜染めの技法は、今から 1,300 年程前奈良時代から鹿角地方に伝わり、歴代の領主がこれを朝廷に献上したものといわれている。

江戸時代には、盛岡藩の保護の下で産業として発展し、瀑布への献上品として江戸まで送られるようになった。明治維新後は、化学染料の普及により、鹿角の紫根染・茜染めは衰退したが、伝統ある染技法の伝承に力を注ぎ、復興させた栗山家によって古代からの紫根染・茜染めが守られていた。

しかし、全国比類ない美しい染色古布といわれた鹿角の紫根染・茜染めの技法は、栗山文次郎の長男文一郎を最後に現在途絶えている。

I テーマ設定の理由

鹿角に伝わる古代紫根染・茜染めという存在を知り、興味を持った。古来から盛岡藩の南部紫根染めは優品として知られており、品質は全国一とされていたようだ。その中でも、秋田県鹿角地方は、南部紫根染めの原料の主な産地と多くの資料に記述されている。ふるさとの伝統や歴史を学び、ふるさとの素晴らしさを発見し、発信する力を育成することなどを狙いとしたかづの学に適した題材と考えテーマを設定した。

II 実施計画

1 オリエンテーション

(1) 鹿角紫根染・茜染研究会の関 幸子さんによる講演

2 鹿角紫根染・茜染の体験

3 文献資料研究

III 実施内容

1 鹿角紫根染・茜染研究会の関 幸子さんによる講演

2 文献資料研究

テーマごとに分かれて、それぞれに調べ学習を行った。

○グループ① 鹿角紫根染・茜染の歴史

1) 鹿角紫根染・茜染め

秋田県鹿角地方では、奈良時代に伝えられたという紫根染が行われていた。江戸時代、当地は盛岡藩の飛地であったため、藩の特産として保護を受けていた。明治以降は、化学染料の流入などにより衰退し、平成 3 年、最後の技術継承者であった栗山文一郎氏の他界により現在は生産されていない。

江戸時代には、菅原真澄が鹿角の紫根染めを見て読んだ歌や、紫根染の様子を描いたものが残されている。また、宮沢賢治も『紫紺染について』という南部の紫根染めについての作品を残している。

2) 紫について

紫は古代から高貴な色と位置づけられてきた。冠位十二階の最高位に置かれたのが紫であり、その後の衣服令でも紫は常に最高位でありつづけた。紫草からとれる染料も大変稀少なものであった。紫草の栽培が比較的困難であったことと、濃い色に染色するためには相当数の染め重ねが必要で、技術的にも高度だったことなどがあった。

また、紫根染や茜染は魔除けや病魔を退散させ、難病の予防になり、病気によく効くとされた。

○グループ② 栗山家について

明治になって化学染料が入り、鹿角紫根染・茜染は衰えてしまうが、大正のころに栗山文次郎さんが復活させ、その息子の栗山文一郎さんによって古代からの技法が守られてきた。文次郎さんはその技術が全国唯一のものとして国から無形文化財に認定された。文一郎さんも、その技法を受け継ぎ、秋田県無形文化財に指定された。

○グループ③ 原材料について

1) ムラサキ

紫根染はムラサキの根をつかう。紫色の語源は、ムラサキの花が群がっている様子からという説がある。根っこは紫色。

野山から姿を消し、現在絶滅危惧種に指定されている。昔は鹿角地域に自生していた。古代は全国各地に自生していたようだが、紫根染めには鹿角

の紫根が上品だといわれていた。



←紫の花



↑ 紫の根

2) アカネ

茜染の染料になる。鹿角地域に自生していた。鮮やかな茜色になる。



3) ニシキオリ(サワフタギ)

下染めに使う。日本各地の紫根染は椿灰を使うが、鹿角紫根染・茜染はニシキオリの灰を使う。鹿角・八幡平地域で見ることができる。

○グループ④ 鹿角紫根染・茜染の技法・模様

1) 技法

絹や木綿の生地をサワフタギの灰汁で先媒染し、絞り加工をしてから野生のムラサキや茜の根から抽出した液で染める。栗山家の染色工程は、絹地では百数十回の下染めののち、枯らし、本染め、寝かし、色調の安定と出荷されるまでに3年近くの月日を要する。下染めはサワフタギの灰汁で染め、天日で干す作業を約120回ほど繰り返す。下染めの作業だけで1年かかる。下染めが完了した生地はクリーム色で、とても固くなる。固くなった布に縫い付ける、模様を入れるための絞りの作業は大変骨の折る作業であったようだ。本染めは紫の根をついて作った染液に浸し、1回浸しては、1回干すという作業を繰り返す。絞りをといた布地は、色を落ち着かせるためにタンスや桐の箱にいれて2年～4年寝かせておく。1反が染め上がるのに5～6年、長いときには8年もかかる。長い月日を経て、味わいのある紫ができていく。



2) 模様

鹿角の絞り模様
花輪絞



大柵絞



立柵絞



小柵絞



絞りの模様を描くための木型



3 鹿角紫根染・茜染体験



Ⅳ まとめと今後の課題

鹿角の紫根染・茜染について学ぶことで、鹿角の歴史についても学ぶことができた。自分の暮らしている地域に、全国に誇れるような文化があったということに驚きを覚えた。

今後私たちは鹿角紫根染・茜染の歴史や栗山文治郎氏と文一郎氏が偉大であったということ、後世に伝えていかなければならない。そのためにも、鹿角紫根染・茜染の保存に取り組んでいる、鹿角紫根染・茜染研究会の活動に注目し、広めていくことが大切なのではないかと考える。

代表者 3C 殿村 雄大
指導者 菅原真紀子

はじめに

八幡平周辺地域では、古くから紫草（ムラサキ）、茜が多く自生していた。中でも鹿角で紫根染、茜染が盛んだったのは、八幡平の気候で育った紫草、茜やニシコホリの質、富士川の水質が染色に適していたことや、美しく発色させ、かつ退色しにくい古代技法が継承されていたことが要因として考えられる。その古代技法は、栗山文次郎、文一郎親子が復興、保護継承してきたが、平成3年に文一郎氏が没すると途絶えた。この講座では、古代技法の復活を目指す『鹿角紫根染・茜染研究会』の方々から指導を受けながら、古代技法より比較的簡易な方法で現代の紫根染・茜染を体験実習してきた。その成果を述べる。

I テーマ設定の理由

現在の衣料品は、クラスTシャツなどに見られるように、化学染料で思い通りの色に染め、何でも好きな柄をプリントできるようになった。しかし、昔の技法による素朴で自然が感じられるような染物の製品は少なく、『昔ながらのもの』は無くなりそうになっている。

そこで、自分たちの住んでいる地域にある『昔ながらのもの』である紫根染、茜染を体験したいと思い、このテーマを設定した。また、比較対象として鹿角地域の産物で紫色に染められそうなものを取り上げ染色実習をおこなった。

II 実施計画

1. 鹿角の紫根染、茜染について(講義)
2. 玉ねぎの皮による草木染 (実習)
3. 紫根染・茜染 下染 (実習)
4. 紫根染・茜染 絞り (実習)
5. 茜染 本染 (実習)
6. ブルーベリーによる草木染 (実習)
7. 山ぶどうによる草木染 (実習)
8. 化学染料を用いた染色 (実習)
9. 紫根染 本染 (実習)

III 実施内容

1. 鹿角の紫根染、茜染について(講義)

鹿角紫根染・茜染研究会の方々を講師に招き、紫根染、茜染の歴史や手法などについて講義を受けた。歴史の古さや材料入手が困難な現在の状況、本校所在地である毛馬内地区とのかかわり、栗山家で行ってきた古代技法な



どについて概要を知ることができた。

2. 玉ねぎの皮による草木染 (実習)

染色とは基本的にどのような作業なのか知するため、身近な玉ねぎの皮を材料に草木染を行った。媒染はミョウバン水溶液で行った。比較的手軽に美しい黄色に染めることができたが、染色後、北向きの部屋に置いていたにもかかわらず窓からのわずかな日光と時間経過により、徐々に退色してしまった。

3. 紫根染・茜染 下染 (実習)

鹿角紫根染・茜染研究会の指導の下、椿灰の灰汁で一回目の下染を行った。本染するには少なくともあと2回は下染が必要であり、残りには研究会の皆さんにお願いした。



4. 紫根染・茜染 絞り (実習)

鹿角紫根染・茜染研究会の指導の下、伝統的な鹿角の絞りの中から大杓絞、小杓絞、立杓絞を選んで絞りの作業を行った。研究会の皆さんが型紙などの準備を手厚くしてくださったが、針仕事に慣れていないため、大変な作



業となった。

5. 茜染 本染（実習）

椿灰の灰汁での媒染と茜の本染を何度かくり返し、鮮やかな朱色に染めることができた。布に媒染液や染液が十分染み込むよう、浸している間は時間を見ながら布を返したり、絶えず動かしたりと、簡単な作業ながら絶え間なく行わなければならない、根気が必要だった。全行程で2時間ほどかかった。



6. ブルーベリーによる草木染（実習）

鹿角で栽培されている紫色のもの、という理由からブルーベリーを選び、煮染と酢染を行った。酢染は染色当日はうっすら紫色になっていたものの、染液に浸して数日置いたところ退色し、失敗してしまった。

7. 山ぶどうによる草木染（実習）

3年選択授業のクラフトデザインで実施した。鹿角産の山ぶどうの実から花輪酢を用いて色素をもみだし、酢染で染色した。ブルーベリーよりも濃い色に染めることができた。

8. 化学染料を用いた染色（実習）

3年選択授業のクラフトデザインで実施した。低温で染められる染料を用いた。作業工程は、塩水で布を湿らせ、あとは好みの色の染液を掛けたり浸したりし、一日置いてから色止めして洗うだけと、非常に手軽であったが、色止めを同じ色だけで行わないと他の作品に色移りした。染める力が強いという実感である。

9. 紫根染 本染（実習）

茜染と同様、椿灰の灰汁での媒染と紫草での本染を何度か行い、鮮やかな紫色に染めることができた。茜染同様、液が十分染み込むよう、浸している間は布を返したり、絶えず動かしたりと、簡単な作業が絶え間なく続いた。若干茜染より工程が少ないものの、全行程で2時間かかった。独特のにおいがあるので、苦手な生徒には大変だった。作業中は、これまでの活動を振り返り、絞りの形と名称を確認したり、紫根の実物を見せていただいたりして、発表への意欲を高めることができた。

IV まとめと今後の課題

草木染は、自然のものから色を染めるので同じものは二度と作れず、また、時間が経つと退色しやすい。栗山家の技法では、ニシコホリの灰汁で120回以上の下染のあと1年寝かせ（枯らす、という）、本染は煮だした染液で10回以上行って2～4年寝かせるという、手間と時間をかけてやっと堅牢で鮮やかな色が定着するのだと実感した。玉ねぎやその他の草木染と比べ、紫根染、茜染は現代技法であっても下準備が大変で、本染めの仕方、染まり方なども独特であった。質の高いものを作るには、細かい作業が多く、染めや媒染の回数、時間、温度の管理も細かく大変だったが、とてもいい経験になった。学べば学ぶほど、深い歴史があることがわかった。ぜひ古代紫根染・茜染に興味を持ち、一度は体験してほしい。

また、菅江真澄の紀行文にあった歌が毛馬内盆踊りの歌だとわかったり、ニシコオリは錦木とも呼んでいて、学校近くの地名にもなっているということも、十高生にとっては感慨深い点である。

今後は、現在着物を着る機会が減少していることから、現代の生活に取り入れやすいものや、購入しやすい価格帯の商品を作ることによって経済的な基盤を整え、技術を残していく努力が必要であると考えます。また、旅行者向けに地域特産品のパッケージに採用する、宿泊施設で使用する、地元の人が良く利用する場所で使用するなど、作品の素晴らしさをより多くの人に広める活動が必要だと感じた。



はじめに

ふるさと教育『かづの学』が始まり2年目を迎え、今回私たちは鹿角を代表するブランド品について調査とまとめをすることで、これらに続く新たなブランドとなりうる可能性を持つ何かがあるのではないか、という発想を起点に新たな何かを探るヒントを模索してみようとした。今までに認証された鹿角ブランドをもう一度まとめてみながら、本当に思いつきの発想から何かを生み出すヒントになればという想いをもち、1年間取り組むこととした。

I テーマ設定の理由

鹿角の地域ブランド農産物としては、川中島白桃という品種に代表される「北限の桃」や「鹿角りんご」といった果樹、ブランド米として今力を入れている「淡雪こまち」、などがある。畜産品としては「かづの牛」や、「十和田高原ポーク」、「八幡平ポーク」として知られる養豚業や加工品などがすでに鹿角ブランドとして認知されている。そこで、これらが何故ブランド化に成功し主力品となりえたかを知ることによって、この先また新たなブランド誕生、もしくはこれらからの波及的効果としての副産物や何かを開発する手がかりを探れば、ふるさと鹿角の産業全体が上手く循環できる地域へと進んでいく可能性があるのではないかとこのテーマを設定し探求していくことにした。

II 実施計画

1 オリエンテーション

- (1) 学習テーマの確認と役割分担
- (2) 学習の方向性の確認

2 資料収集・整理 & アイデア会議

3 過去のブランド品の特徴についてのまとめ(考案商品)試作品作り

4 それぞれのまとめ

5 発表準備

III 実施内容

1 オリエンテーション ……

学習テーマと方向性の確認

今年度本校に赴任した指導担当者と昨年実施した学習形態についての意見交換を行い、何故このようなテーマで進めることを考えたのか、このテーマから連想される学習結果などについての意見交換を実施した。指導担当者の考えとしては、少し前に知った鹿角ブランド品(北限の桃や桃豚など)について商品を知るだけでなく何故ここまで上手くブランド化に成功したのかを知るよい機会でもあり、鹿角にはまだまだ埋もれていてブランド化できるものがあるのでは?ということで、それらを発掘できればという想いのものであった。

生徒側の選択理由としては、①自分達が商品について少しは知っているので調べ易そう。②何か新しい物との出会いがあるのではとの期待感。③自分達で自由な発想の商品開発ができるのでは等であった。そこで学習を進めていく方向性として、新商品開発グループと既存のブランド品についてのまとめチームとに分け並行した形で学習を進めていく方向性を確認した。

2 資料収集と学習内容の整理

(1) 既存の鹿角ブランドから

今までに『鹿角ブランド』として誕生した物の中から、何を題材に選択するかの話し合いを持ち、代表的な①北限の桃と②桃豚の2つにすることにした。これらについては、前年度先輩たちも調べており、資料も豊富にあることから、再度特徴的な事項だけをまとめ上げるのにそんなに手間がかからず進めることができる点から選定した。

(2) 新ブランド探究および商品開発から

自由な発想をもとに、手軽で馴染みやすい物を模索できないかということ、せっかくなので地元にある特徴的な食材を利用して何かにチャレンジしてみても面白いかも、(つまりは地産地消を意識した考案品作成)として今後秋田

を代表するお米のブランド『あきたこまち』に次ぐ鹿角米『淡雪こまち』を利用することで、お米としてのブランド化や関連加工品の進展へと繋がる可能性を持つものではないかという点に着目し、若者だけではなく、お米に愛着のある年代の方々にも食べていただけるような物ができないか、まずはあれこれアイデアを出してみようと言うことでそれぞれの想いを出し合いました。その結果として、身近にあるファストフードのバーガー作りにとりあえず挑戦することにしました。

3 過去のブランド成功品(北限の桃と桃豚)のまとめと挑戦物品(バーガー)の試作品作り

(1)既製ブランド品の特徴

①『北限の桃』より・・・

元来鹿角地域ではりんご栽培が盛んな地域ではありましたが、市場価格の下落や自然災害、好みの変化による品種管理、高齢化や後継者不足などによる生産意欲の低下などの要因もあり、所得の減少に伴い徐々に減少していった。そんな折、この地域に適していた『桃』の生産へと切り替えていく中で、この地域が次の様な条件で高品質な果樹の生産に適合してる事がわかった。それは、**①生育期間における日照時間が長い。②生育期間中の降水量が少ない。③昼夜の気温差が大きいこと。**これに加えて一般的な桃の出荷時期が夏なのに対して、鹿角の桃は9月中旬以降と**品薄になる時期が最盛期**である。このため需要が大きく品質的にも糖度が高く人気の商品へとなっていき、収入の増加へと繋がった。現在では桃そのものだけでなく、加工品としてのバリエーションも多く、『北限の桃』というネーミングも定着しつつある事からブランドとしての地位も確立しつつある。

②『桃豚』より・・・

この豚は秋田県小坂町にある有限会社ポークランド・十和田湖高原ファーム・ファームランドの各養豚場(ポークランドグループ)で飼育されている。特徴的なのは、完全管理による【Specific Pathogen Free・・・特定の病原菌を持っていない】SPF豚(清浄豚)であるため、本来豚が持っている特殊な病原菌がなく糶り易いといわれている、**トキソプラズマ感染症・流行性肺炎・萎縮性鼻炎・オーエスキュー病・豚赤痢**にかかっていない「健康な豚」として認定されている。肉質の特徴は、淡いピンク色をしており脂肪分が少な

い。そして柔らかく肉の臭いも少ない。これを実現できている要因のひとつに、BMW(バクテリア・ミネラル・ウォーター)技術という自然循環型の水浄化システムでの工夫もあります。近年は『食の安全性』ということが求められており、まさに鹿角ブランド豚「桃豚」はこれにうってつけであり、単なる家畜としてでは無く地元生産者の手間暇掛けてでもという拘りが生んだ鹿角ブランドの1品であると言える。

(2)新ブランド探究(商品開発試作品の製作)

今回地産地消ということを少しでも意識しながら、若者から年配者まで手軽に食べられるものとして、『米粉バーガー』なる物を作ってみることにしました。最初の発想点は、鹿角米『淡雪こまち』の特性を生かした副惣菜(おかず)作りかスイーツ系加工品を考えていたのですが、お米の味もよく解っていないので身近な物でまず一品試作しようから始めました。中には煎餅や発酵食品などのアイデアも出ましたが、時間と予算を考えると無理があることからバーガー案が採用されました。

一番の難敵は、米粉を使ってバンズ作りをする際の生地作りをどうしたらよいのかということでした。基本はパンと同じ発想ではあるが、使用する酵母菌や寝かせ時間、温度管理や焼くタイミングの見極めなど簡単には試作に入れず、何回も失敗を繰り返す余裕がなかったことです。しかし、幾ら机上の空論ばかりを巡らせていても実際の物を誰も経験したことがないので、思い切って制作することにしました。基本的なパン作りのレシピ(クックパッドを参考に)をもとに作ってみたのですが、見た目はボリュームのあるスナック軽食のようだが、食してみると色々不都合なことが見つかりました。例えば中の具材との調整失敗によるパサパサ感、バンズの仕上がり具合(外が少し堅めで噛みにくい・パンにも味がありダブルで少し濃い味系など)等物作りには根気と時間、反省と失敗の連続の中から何かが生まれるのだと痛感しました。簡単に新ブランドを作るなどとは言えない事も学ばされる一年となりました。

IV まとめと今後の課題

以上の事から、鹿角においてブランドを築き上げてきた人達が、いかに日々の生活の中でふるさと鹿角の特異性を想い、地元愛の眼差しを持って取り組んできたかを知り、日頃からふるさとに目を向けた生き方が大切だと学べた1年でした。

代表者 3A 倍 賞 幸之介

指導者 岩 谷 宣 行

はじめに

ドイツの気候学者ケッペンが行った気候区分によると、日本の大部分は温帯であるが、鹿角地域は北海道と同じ冷帯に分類される。冬季の最低気温は-14.4℃、1月の平均気温は-2.3℃(2015)と、北海道以南では非常に冷え込みが厳しい地域である。一方で夏季の暑さは厳しく、最高気温は34.1℃まで上昇することもある(2015)。この寒暖の差は、果樹栽培をはじめとして好条件となる農作物も多い。

鹿角地域には、これからを期待されるブランド農産物が多数展開されている。これらの生産構造と流通形態を調査し理解することで、①ふるさとの素晴らしさの発見、②ふるさとへの愛着心の醸成、③ふるさとに生きる意欲の喚起、④ふるさとについて発信する力の育成、の本校ふるさと教育「かづの学」が掲げる4目標の達成を図りたい。

I テーマ設定の理由

鹿角の地域ブランド農産物としては、川中島白桃を出荷時期の遅さを活かしてブランド化した「北限の桃」や「鹿角りんご」といった果樹、ブランド米として首都圏へも出荷されている「淡雪こまち」、さらには強烈な辛みが特徴の「松館しばり大根」といった野菜がある。畜産物としては「かづの牛」や、「十和田高原ポーク」及び「八幡平ポーク」として知られる養豚業も盛んである。ふるさと教育「かづの学」を展開していくにあたり、年度ごとに対象とする農産物を設定し調査・研究していく計画を立てた。前年度調査した「北限の桃」に続いて、学校給食等で生徒が口にした記憶が明確な「淡雪こまち」を今年度は研究対象とすることにした。

II 実施計画

- 1 受講者へのオリエンテーション
- 2 淡雪こまちについて（講義）
- 3 JAかづのより講師を招いての講話
- 4 淡雪こまち作付圃場の観察
- 5 農家への調査項目の策定

- 6 淡雪こまち生産農家への調査（夏季休業中に聞き取り調査を実施）
- 7 淡雪こまちの出荷作業見学（JAかづの倉庫）
- 8 食味体験
- 9 発表会へ向けての役割分担
- 10 十和田高校ふるさと教育「かづの学」発表会

III 調査・研究内容**1 淡雪こまちの生産構造****(1) 淡雪こまちが栽培されるまで**

鹿角地域における稲作は古くから行われてきた。この地域は秋田県内においても特に冷涼な気候で、他地域と同様の取り組みでは競争に勝つことができない。鹿角地域に適した特色ある品種を栽培したいとの想いから、2006年に試験栽培を開始した。そして、成熟期が早く倒伏に強い品種「秋田51号（でわひかり）」と、低アミロース品種の「奥羽343号」の交配によって「淡雪こまち」が誕生した。2009年より県の認定品種として本格的な栽培が始まった。

(2) 栽培の特徴

淡雪こまちの生産にあたっては、以下に記載する事項を守ることが求められる。

＜栽培遵守事項＞

- 1 研究会の作付方針や栽培マニュアルに従う。
- 2 淡雪こまちの種子は、絶対に自家採種を行わない。
- 3 有償無償を問わず、種子の譲渡は絶対行わない。
- 4 白濁の少ない淡雪こまちづくりのために、直播栽培とする。
- 5 作付圃場は、カドミウム土壌分析をし抑制対策の水管が出来る圃場に栽培する。
- 6 生産管理履歴行程表の記帳を実施し、出荷前に事務局へ提出する。
- 7 生産物は、全量JAに出荷し等級及びカドミ

ウム検査を受検し、保有米は総生産量の2割までとする。

上記事項を遵守しない場合は次年度作付出来ない場合もあるとされており、厳しい管理によって品質の保持が図られている。

淡雪こまちの栽培にあたり特徴的なのは「直播栽培」である。種籾を直接播くことにより、育苗し田植えをする一般的な「移植栽培」より労力がカットできる。具体的には、10aあたりの労働時間が25%削減される。また、重い苗を運ばなくてよいため、農家の高齢化にも対応できるとされる。結果として、生産コストは10aあたり11%削減される。その理由は、育苗用ハウスや育苗のための機械設備が不要となることが大きい。

直播栽培を行うためには、過酸化カルシウムにより種子をコーティングする作業を実施する必要がある。これをカルパーコーティングとよび、作業の一切を「かづの淡雪こまち直播研究会」が行っている。

通常の「田植え」とは異なるため、一見すると耕作を放棄した圃場のようにみえる。特に播種後7～10日目あたりは、出芽を促すために水田の水を抜くためなおさらである。通常の水田は稲植えであるのに対し、直播栽培は水田で発芽するため生育の度合いには差がある。しかし、7月中旬になるとその差はわからないほどにまで成長する。

(3) 生産者の特徴

夏季休業中を利用して、十和田地区の淡雪こまち生産者に対して聞き取り調査を実施した。その結果をみると、就農は家族単位で、そのうち1～3名が作業に従事しているケースが多かった。一方で農業生産組合を組織し、企業的経営を行っている法人もある。

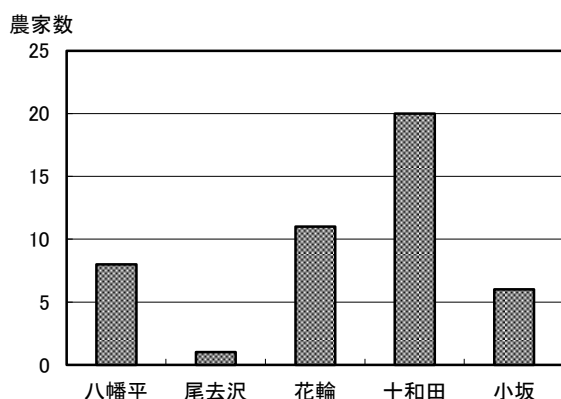


図1 淡雪こまちの生産者の居住地

臨時雇用は、シルバー人材センターの活用や、稲作期以外は果樹園での作業に従事させることにより、通年雇用しているケースもあった。

淡雪こまちを生産している農家は46世帯である。それら農家の居住地は、図1のとおり十和田地区に多い。その中でも、錦木に6世帯、瀬田石に4世帯と集中している。これは、大湯川や小坂川に近接する地域であることが背景としてあげられる。

2 淡雪こまちの流通形態

(1) JAからの販路

JAかづのは、淡雪こまちの全生産量の8割を流通させている。JAかづのによる直接販売と、全農あきたに販売を委託するもの、そして鹿角地域に販売する3ルートが存在する。小売業者名をみると、秋田県内以外は首都圏が多い。淡雪こまちは、全国各地の銘柄米を集めて販売している米穀店に卸されている。一般的なあきたこまちよりは高値で取引されるため、コメの味覚を追求する消費者が購入している。

(2) その他の販路

予想ではインターネットを活用した独自ルートによる販売が積極的に行われていると考えていた。しかし、自由に販売等を行えるのは生産量の2割のみであるため、全国の消費者に積極的に販売できない現状があった。知人等を通して販売している程度である。

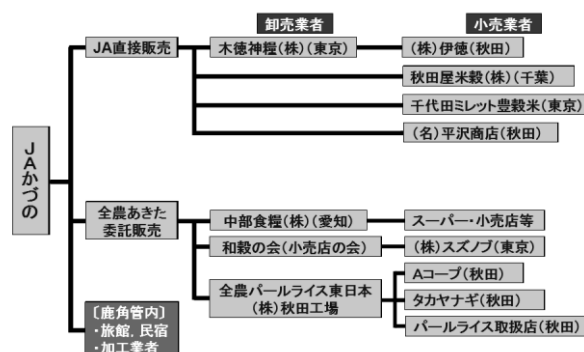


図2 淡雪こまちの流通経路

IV おわりに

本研究では、鹿角のブランド農産物として知名度のある「淡雪こまち」について、生産構造と流通形態を限られた時間の中で調査、研究することができた。この結果を本校生徒及び地域の方々に提供できたことは大きな成果である。今後は、鹿角の他の農産物についても調査しまとめたいと考えている。

発表者 3B 鎌田 侑斗
指導者 飯塚 俊介

はじめに

グループ構成は3年生7名、2年生5名、1年生4名の16名。地元鹿角ではどのような“おみやげ”が取り扱われているか調べ、そこから鹿角の地域性について考察することを目的に活動した。今回は実際におみやげを扱う店舗に調査に行き資料を集め、それらをもとに鹿角の地域性について各自で文章の形で自分の考えをまとめた。

I テーマ設定の理由

おみやげの持っている意味について考えた。

おみやげは旅の発達と共に、広まった日本の贈答文化である。昔の旅は、再会があやぶまれる危険をともしなうものであつて、旅に向かう人に対して周囲の人々は、おはらいなどの意味で贈り物をしたと言われている。それが「餞別」である。そういった心遣いに対する返礼の気持ちから、旅人は旅先の特産品を持ち帰り、贈ったことが「おみやげ」の起源であるという話がある。

現在は、交通の発達とともに旅は次第に日常化し、昔に比べて旅の危険性は少なくなった。さらに、今はインターネットなどでお取り寄せることで何でもすぐに手に入る時代である。

それでもおみやげの文化が残っているのは、おみやげを友人・家族・周囲の人々に買って帰ることで、自分が旅で感じた雰囲気や他者と共有したいという気持ちがあるからである。そのため、このおみやげの文化が今でも残っているのだと考える。

おみやげには、その土地にちなんだ味や素材が使われ、旅先が伝わりやすいようにネーミングが工夫されているものが多い。また、〇〇限定など現地に行かなければ買うことができない商品も多くある。そこで、おみやげの味やネーミングを調べることで、その地域の特性を読み取ることができるのではないかと考えた。そこで、今回は地元鹿角のお菓子や食品のおみやげ品を中心に調査することで鹿角について考えることにした。

II 実施計画

1. 仮説をたてる。

調査を始めるにあたって、全員で鹿角のお土産と言えど何があるか意見交換した。

2. 調査先のリストアップ。

鹿角・小坂を対象とし、この地域でおみやげを扱う場所として、どのような店があるかリストアップした。

3. 実地調査する。

全員で手分けして、夏休みを利用して実地調査を行った。

4. 資料の整理をする。

調べたデータをリスト化。また、不足しているデータがあれば、ITルームなどを利用して資料の整理を行った。

5. 考察する。

整理した資料から読み取れることや実際に調べに行き感じたことを各自で文章の形でまとめた。



III 実践内容

おみやげを調べた場所は次の7か所である。

- ・鹿角観光ふるさと館「あんたらあ」
- ・史跡「尾去沢鉱山」
- ・小坂鉱山事務所
- ・ホテル鹿角

- ・千葉旅館
- ・おらほの市場
- ・サンクス毛馬内店

観光地「史跡尾去沢鉱山」について

純金○○という商品が多く販売されていた。商品のネーミングだけでなく、小判の形や壺に入ったチョコなど見た目でその場の雰囲気を感じることができる商品も見られた。金塊の形をした純金ティッシュもあった。店員さんに聞いたところ、売上の第1位は「純金茶」、2位が「小判チョコ」ということであった。



おみやげ品全体を通して感じた鹿角

全体を通して見たとき、商品に共通したキーワードは「桃」・「りんご」・「はちみつ」だった。ジュースになったり、ゼリーになったりと形は様々だが、調査したどのお店でも販売されていて、鹿角の地域性を示すキーワードだと感じた。

桃は地域ブランドでもある“北限の桃”として知られている。本州で最も遅い時期に収穫される桃として、絶妙の甘さをもつ川中島白桃で、ゼリーなどの商品になっている。また、鹿角のりんごはりんごパイやジュースとして販売されているが、主力は“ふじ”で果肉が黄色で甘みが強い果物。はちみつについては、鹿角産アカシアの花が満開の時期に採取した貴重な高純度あかしあ蜂蜜が利用されている。

いずれも鹿角の自然に由来するもので、鹿角は自然が豊かであることが、このことから読み取ることができる。



その他

ホテルではフロント前で、おみやげを販売していた。鹿角だけでなく、なまはげクッキーやチーズケーキなど秋田県を訪れた人に向けたおみやげもあった。

意外だったのは、学校前のサンクスです。コンビニでも比内地鶏サブレや比内地鶏せんべいが販売されていた。



Ⅳ 評価（まとめと今後の課題）

まとめとして、今回の活動を通して感じたことを感想文から拾い上げて紹介する。

「鹿角は北限の桃やりんごなどの果物が盛んな地域のため、おみやげでも加工菓子などが数多くあった。」「鹿角は自然環境が良いということが結果から見られた。」「特徴的に見られたものは、どれも鹿角の恵まれた自然がなければできないものだった。自分の地元が環境の良いところで良かった。」

一方で「ちょろぎなど地元にも馴染みのないものもあったので宣伝の工夫が必要。」「鹿角のおみやげといっても具体的なイメージが持てなかった。それよりも花輪ばやしなど形に残らない文化財が多いと感じた。それもこの地域の魅力だと思う。」

今後の課題として「商品の詳しい特徴や面白エピソードなどを調べてみたい。」「商品をより多くの人に知ってもらうための販売方法などを考える。」などの感想があった。

今回の活動にあたり最初に全員で話し合ったときに「鹿角は自然環境がよい」という意見が多くあった。今回の調査を通して地元鹿角の自然の豊かさ、恵みについて改めて認識することができたことが良かったと思う。

代表者 3A 小館 正尚
指導者 畑山 翔太

はじめに

私たちの班は、観光資源にあふれる鹿角において、特に多くの観光客が訪れる観光地である十和田湖についての調査・研究活動を行った。実際に現地に行くことができなかったが、統計資料を中心に様々な文献に触れ、それをまとめる活動に取り組んできた。

I テーマ設定の理由

鹿角を代表する観光地である十和田湖だが、訪れる観光客数は減少していると聞く。また、十和田湖に鉄道で向かう際の秋田県側の玄関口である十和田南駅からは、かつて観光バスが出るなどの賑わいが見られたと聞いたが、今ではその面影を感じる事ができない。なぜ観光客は減少していったのか？という疑問から、今回のテーマ設定に行き着いた。

十和田湖と十和田南駅に加え、十和田湖までの道のりの途中にある大湯温泉郷についての歴史と現状を探り、十和田湖についての知識を深め、観光地としての今後の可能性を探ろうと考えている。

II 実施計画

- 1 十和田八幡平観光物産協会の方から、鹿角の観光の現状についてお話を聞く。
- 2 十和田湖・大湯・十和田南駅周辺の3グループに分かれ、インターネットや文献で調査をする。
- 3 『鹿角の統計資料』をもとに観光客数などを調べてグラフに表し、わかったことをまとめる。

III 実施内容

- 1 十和田八幡平観光物産協会の菅原さんと鹿角市役所産業活力課の黒澤さんをお招きして、鹿角の観光に関する現状について学んだ。



(鹿角市役所産業活力課 黒澤さん)



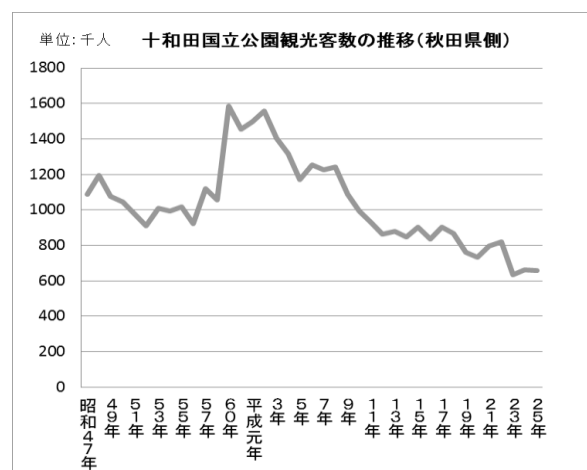
(十和田八幡平観光物産協会 菅原さん)

分かったこと

- ・2008年に青森県との境界線が決まった。(青森6:秋田4)
- ・十和田湖の名前の由来は、アイヌ語で「ト・ワタラ(岩の多い湖)」から来ている。
- ・以前の花輪線は6両編成で、十和田南駅から十和田湖に向けて観光バスが出ていた。
- ・秋田新幹線や東北新幹線の開業、東北道の開通などが観光客数に影響している。
- ・観光客数は減ったが、現在は外国人の観光客が増加している。

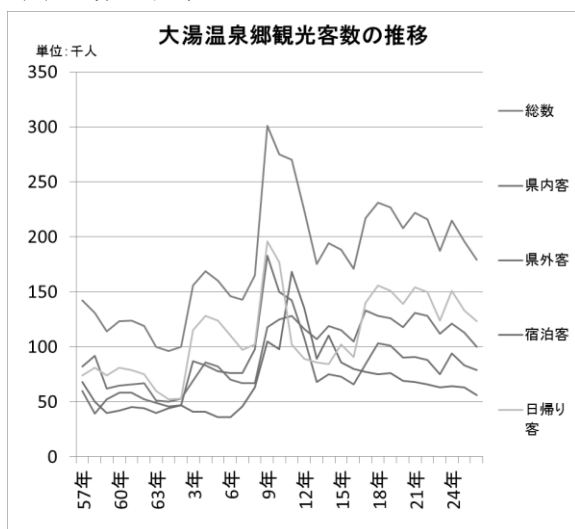
2 鹿角市の統計資料をもとに観光客数の変化を調べ、グラフに表す

(1) 十和田湖



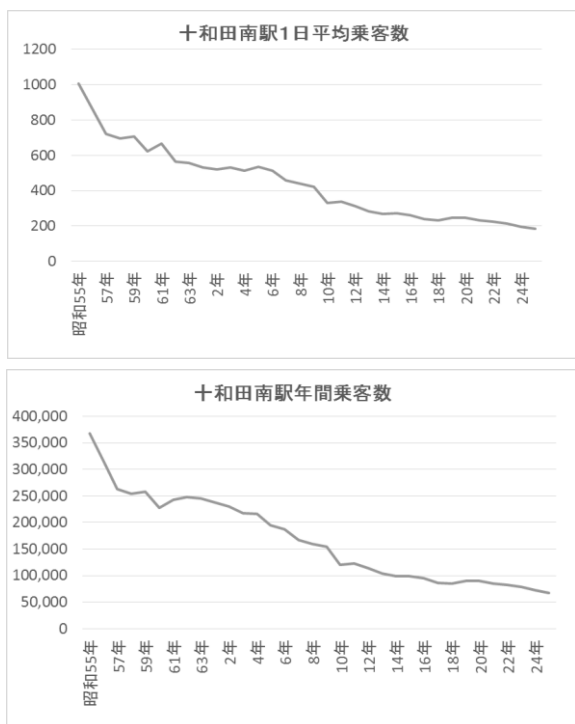
- ・昭和60年をピークに減少しているが、その要因を知ることはできなかった。
- ・平成10年より横ばいを維持しているが、これは平成10年から「十和田湖冬物語」が始まったことが原因と考えられる。
- ・平成14年には東北新幹線が新青森駅まで伸び、十和田湖の玄関口は青森県側に移動したため、観光客数は再び減少した。

(2) 大湯温泉郷



- ・平成9年に急激に観光客数が増えているが、この年に秋田新幹線こまちが開業したことで、鹿角で冬季国体が行われたことが原因と考えられる。
- ・同様に冬季国体が行われた平成19年にも、観光客数はわずかに増加している。

(3) 十和田南駅(乗客数)



- ・年間、1日平均の乗客数ともに右肩下がり減少しているため、JRバスを利用した観光客は減少したと考えられる。その反面、自動車で訪れる観光客は増加したのではないかと考えられる。
- ・十和田湖への観光バスは、十和田南駅や高速バスのけまな停留所から大湯温泉駅(バス駅)を経由して十和田湖の休屋までの区間を走っていたが、現在は秋の期間運行などにとどまっており、定期便は運休または廃止となっている。

IV まとめと今後の課題

十和田湖への秋田県内からの観光客は減少傾向にある。その原因としては、青森県側からの方が十和田湖へのアクセスが良く、途中に奥入瀬溪流などの観光スポットもあるため、観光客が青森県側から訪れるようになったことが挙げられる。この状況を改善するためには、近年増加しているという外国人観光客を呼び寄せたり、「十和田湖冬物語」のような冬期間のイベントを活性化させたりすることなどが考えられる。

また、大湯温泉はいまだに利用者や観光客が多いため、今後も訪れる人は多いと考えられる。そのため、そこから十和田湖まで足を伸ばしてもらえようようにするために、ツアーなどを企画することも一つの手段として考えられる。

この調査活動を通して、特に十和田湖は厳しい状況にあることがうかがえた。青森県側からの観光客は秋田県側に比べて多いが、それでも減少しているという。今回は秋田県側のみから調査をおこなったが、比較対象として、また十和田湖を共有する存在として、青森県側を調査することも面白いと感じる。そして、県を超えて十和田湖を再び活性化させる手段を考えられればよいのではないかと考える。また、鹿角には他にも様々な観光地・イベントが存在する。観光は鹿角の大きな魅力の一つであるので、それについてさらに理解を深めていきたい。



【観光・産業】 13 小坂鉄道レールパーク探求～レールパークの魅力を探る

代表者 3A 阿部 里紗

指導者 伊藤 一寿

はじめに

1872年(明治5年)という年は、文明開化を代表するような年で、太陽暦、学校制度、郵便、そして鉄道が始まった年です。

そして、秋田県民歌に「地下なる鉱脈無限の宝庫」と歌われたように、かつてここ鹿角の地は小坂鉱山や尾去沢鉱山が栄えた地域です。

今ではその鉱山もなくなってしまいましたが、往時を偲ばせる施設や文化はまだ残っていて、それを懸命に守ろうとしている人々がいます。

I テーマ設定の理由

鹿角の地に残る歴史的・文化的遺産の中で異彩を放つのが小坂町に残る明治以降の建築や、旧小坂鉱山関係の施設です。

その中で、小坂町では、旧小坂鉄道の廃止後も鉄道の火を消すまいと、町ぐるみで施設の保存に取り組み、2014年4月1日について「小坂鉄道レールパーク」を開業させました。

そこで、今回は鉄道好きの2人の先生の協力を得て、小坂町や小坂鉄道保存会の方々と交流して、レールパークの魅力を探っていくことにしました。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 レールパークについての調査
- 3 実地体験
- 4 保存会の方の講話を聞く
- 5 インターンシップ体験
- 6 鉄道まつりでのボランティア活動
- 7 体験のまとめ
- 8 発表会の準備・発表

III 実施内容

1 レールパークについての調査

(1)メンバー15名のうち3名は小坂中出身で、鉱山事務所、康楽館に代表される「明治百年通り」や鉱山関連の取り組みと、それを観光資源として生かそうと町ぐるみで取り組んでいることを学んでいますが、他のメンバーは、それらのことについての知識が少なかったため、インターネットや各施設のパンフレットでそれらの歴史や概要を知るところから始めました。

(2)その結果、主な活動として次の項目を柱とすることを考えました。

- 1) 実際にレールパークに行って体験する
- 2) インターンシップをさせてもらう
- 3) 「鉄道まつり」でボランティアをする

2 レールパークでの体験

6月13日(土)実際にレールパークに行って体験してきました。

(1) レールパークの主な施設

1) 駅とそれに付帯する施設設備
腕木式信号機やタブレット交換機など

2) 車両

・動く車両

ディーゼル機関車

モーターカー

ラッセル車

・展示車両

あけぼの寝台車両

明治時代の蒸気機関車と貴賓車

エボルタ電車 他

3) 乗り物

観光トロッコ

レールバイク

手こぎトロッコ(テトロ)

(2)感想

・ディーゼル機関車が3重連で目の前で走るのはすごい迫力でした。

・レールバイクがもう少し距離が長く、景色にも変化があればいいと思いました。



3 インターンシップ体験

これまでレールパークでは本校のインターンシップは受け入れていませんでしたが、お願いしたところ快く受けて頂き、7月23～25日の3日間、2年の美濃山、坂庭、田中のソフトテニス部トリオが体験してきました。

夏の暑いさなかでの機関庫の掃除、蒸気機関車の清掃、接客体験など、結構大変でしたが貴重な体験をすることができました。

・大事なこと

- 1) お客様に接するときは手を後ろで組まない
- 2) 見送りはお客様が見えなくなるまで
- 3) ここにあるのは全て商品

4 小坂鉄道保存会の方の講話



夏休み明けの8月25日、小坂鉄道保存会の会員で本校卒業生の保護者でもあった亀沢さんから「小坂鉄道の魅力」という題で講話をして頂きました。

インターネットやパンフレットである程度の予備学習はしていましたが、実際に何十枚ものスライドで旅客列車や貨物列車が走っていたときの映像を見せてもらい、様々な貴重な施設、町と保存会のこれまでの取り組みについてお話を伺って、小坂鉄道に対する保存会の皆さんの「愛」がひしひしと伝わってきました。

5 鉄道まつりでのボランティア体験

(1) 準備

今年の鉄道まつりは10月11、12日の2日間でした。鉄道まつりはレールパークの職員と保存会の方々、町の担当の方々の他にボランティアも参加して30人ぐらいの人々で運営されます。その中に自分たちが加わって、足手まといにならないかという不安もありました。

事前打ち合わせで先生がもらってきた要項を見て、その計画の緻密さに驚きました。そして、私たち一人一人にもちゃんと役が割り当てられ、頼りにされていることを嬉しく思いました。

本番

当日は二日間ともあいにくの雨でした。それでも開場と同時に多くのお客様が訪れ、小さな子供からお年寄りまで幅広い年代の人々が訪れて下さいました。



男子はレールバイクの補助・誘導係と、幼児向けの手こぎトロッキを担当し、女子は制帽を貸してもらって、改札や車掌、機関車乗車体験の抽選業務を担当しました。



最後にはご褒美に全員が走るディーゼル機関車の運転台に乗せてもらい、運転台からの景色を楽しみました。

Ⅳ まとめと今後の課題

インターンシップや鉄道まつりのイベントを通じて、関係者の情熱と、レールパークを訪れるお客様の温かさに触れ、鉄道の良さを感じることができました。今後も貴重な文化遺産として残しておくべきだと思います。

関係者の皆さん、ありがとうございました。



グループ	メンバー	HP作成店舗名
1	1A 赤坂悠名 1A 関 諒 1B 加賀 誠	春山商店（尾去沢） ザ・ラーメン のりさん
2	2B 青山瑞嬉 2B 四戸 芹奈 2C 池田 佳奈子	スイートバジル 山水亭
3	3C 瀬川 亘 2B 佐藤 響 2B 竹田 天斗	隠れダイニング ぽけっと たこ焼き りゅうちゃん

(表1)

指導者 小笠原 和寿

はじめに

私たち14班は「鹿角にある店舗のホームページ作成・紹介」としてスタートした。9人を3つのグループに分け、自分達でホームページ作成をする商店を決定し、実際にお店に行き、活動内容を説明し、承諾を得て、簡単ではあるが、学校のホームページにリンクする形で普段あまり脚光を浴びることのない地元の商店街の紹介を発信しようと思うものである。

際に訪問し、取材・写真撮影・HP作成許可をとる。

- 取材内容をまとめると同時に、ホームページ作成のためのHTMLタグの学習も進める。
- 1回の取材で制作材料が不足であれば、再度訪問し取材させていただく。
- それぞれのホームページを本校のホームページからリンクできるようにする。

I テーマ設定の理由

学校周辺は毛馬内商店街をはじめ、歴史も古く、また、十和田湖、八幡平等の観光地もあることから商店街や街並みそのものの観光に訪れる方はいるのだが、残念ながら商品を購入するためではない場合が多い。商品の売買はもっぱら商店どうしや周辺住民のみに限られている事を知り、お店の方々に「商品をアピールする機会」と「お店の方や、雰囲気を紹介する」ことを微力ながら、広くインターネットで紹介することを目的にした。

II 実施計画

- 活動しやすいように3人の小グループを3つ作る。
- 毛馬内商店街マップを参考にしたり、登下校の際に見ているお店を思い出しながらホームページを作成したい店を選定する。
- 決定した店に訪問のアポイントをとり、実

III 実践内容

1. 各グループの選んだ商店（上記表1）参照

(1) 最初はホームページというものの自体を分かってもらえず、意図が伝わらなかったり、お金がかかると思われるなど、うまく説明が伝わらないグループもあった。

(2) ホームページは知っているが、そういうものに興味がないし、パソコンを持っていない、または、持っていて操作ができないので店の紹介をしてもらわなくてもいいと言われたグループもあった。

(3) 反対に鹿角市の壮大な町おこしプロジェクトにでも参加させられるかのように思われ、断られたり、過大に期待されてしまうグループもあった。

(4) 実際に訪問してみると、商品の紹介より

も高校生が来たということで、わざわざ時間を割いて、商店街の歴史や、お店の創業から現在までの変遷や苦労話など、丁寧に優しく説明をしてくれたのがとても印象的だった。

- (5) 商店によってはお店のパンフレットを頂いたり、試食させて頂いたグループもあった。

2. ホームページの作成

- (1) 実際に作成に入ったのは、取材が終了した9月頃からである。いままでホームページを作成したことはなかったので最初は戸惑ったが、学習を続ける事で作成できるようになった。
- (2) ホームページ作成は数万円もする作成ソフトなどを買わなくとも、パソコンにある「メモ帳」を使い、HTML タグという言葉を使えば誰にでもすぐ簡単に作ることができると分かった。
- (3) 皆さんも今後、自分のホームページを作りたいと思ったり、または、ホームページ作成を誰かに頼まれた時は、簡単なもの（フォント、大きさ、配置、色、写真、配置、簡単なアニメーション、リンク程度）で良いなら、高いソフトを購入しなくても簡単に作ることができるし、さらに、自分の勉強にもなる。
- (下図参照)



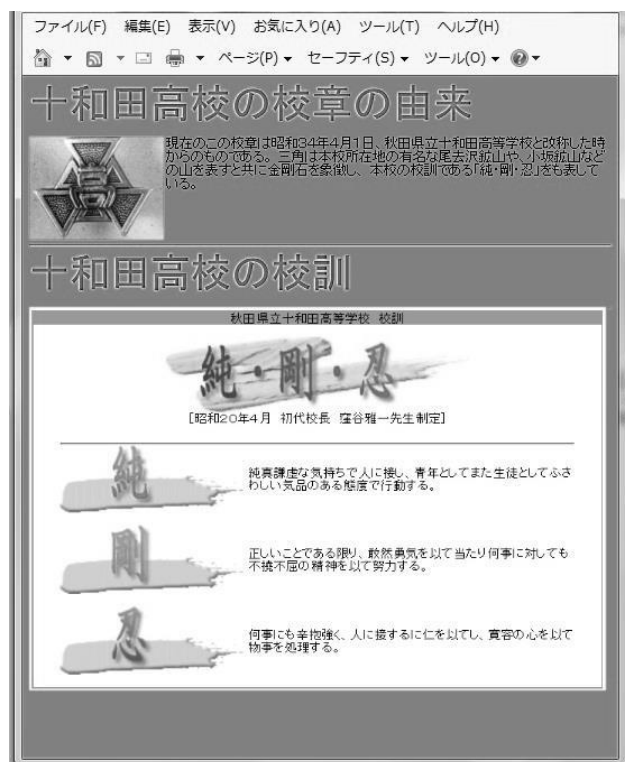
たとえば、メモ帳にたったこれだけを打ち込むだけで…



IV 評価(まとめと今後の課題)

今後は、各グループの完成したホームページをお店の人にチェックしてもらい、変更や訂正を加えたのち、許可を頂ければ学校のホームページからリンクできるようにアップロードする予定である。少しでも多くの方々に見てもらうことで、微力ながら商店のPRになればと思う。

今回、お店を訪問させていただき、お話を伺う中で各グループとも共通していたのは、お店の方々の人を迎え入れる温かさである。商売を営む上で商品を売ることは最も基本的なことであると思うのだが、それ以上に、この商店街の歴史の遷り変りを肌で感じてきた力強さのようなものを心に強く感じた。最初は、ホームページ？テレビみたいなやつか？CMなのか？お金とるんだが？と言われ、なかなか説明が大変だったが、それでもいつも、高校生か？学校の勉強だが？またいつでも来いな(´o`)…と言ってくれる皆さんの優しいまなざしがとても嬉しかった。中にはお店のメニューを試食させていただいたりした班もあり、かづの学の学習を通じて、本校が地域の方々に温かく見守られ、学校の活動に快く協力してくれることを感じる事ができた。私たちもこれから地域のためになるボランティア活動等に積極的に参加していこうと思った。



こんなホームページが出来上がります!!
高価なソフトを購入する必要はありません!!

代表者 3B 佐藤 翔樹

指導者 石井 智子 木藤 大嗣

はじめに

鹿角市は「スキーと駅伝のまち」で有名な市である。市では、スポーツ振興基本計画に「スポーツによるまちづくりの推進」を掲げ、「スキーのまち鹿角・駅伝のまち鹿角」を目指してスポーツ振興に取り組んでいる。駅伝は50年を超える歴史があり、スキー競技も冬季国体は過去5回開催されている。全国中学校、高校、大学のスキー大会も数多く実施している。

また、施設環境を整え、「スポーツによる交流人口の拡大」や全国大会、スポーツ合宿の誘致による「地域活性化」も狙いとしている。

I テーマ設定の理由

鹿角市のスポーツ振興を知る上で、スローガンとして掲げているスキーと駅伝の歴史を調べるのが近道ではないかと思い、テーマを設定した。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 「どごさでも」出前講座
- 3 鹿角市のスポーツ振興について
- 4 発表に向けてのまとめ
- 5 発表

III 実施内容

1 「どごさでも」出前講座

鹿角市教育委員会生涯学習スポーツ振興課の方が来校、講義をしていただいた。

(1) スキーと駅伝のまちづくり事業について

スキー人口の拡大や競技の向上を図るためスキーや駅伝の全国規模の大会を開催している。

内容としては

1. インカレの開催
2. 市主催大会の開催

が主で、十八駅伝、浅利純子杯争奪鹿角駅伝、全国

ジュニアサマーノルディック大会、県民体育大会スキーが開催されている。

また、各大会を開催することで

1. スキークーポン券の発行
2. 共通シーズン券購入支援
3. 選手の下宿改修支援

などの支援も行っている。

(2) スキー大会の開催、駅伝大会の伝統について

国体スキーは2011・2013大会を含め過去5回開催されている。また、全国中学校、高校、大学のスキー大会を数多く実施している。2016年はインカレ、2018年は全国中学校スキーの開催が決定されている。

駅伝大会には伝統があり、「十八駅伝」は全国レベルの駅伝大会である。昭和23年戦後の混迷期に地域興しに立ち上がった青年会によって第一回大会が開催された。本年度は第68回にあたる。

(3) 「スキーと駅伝のまち鹿角」

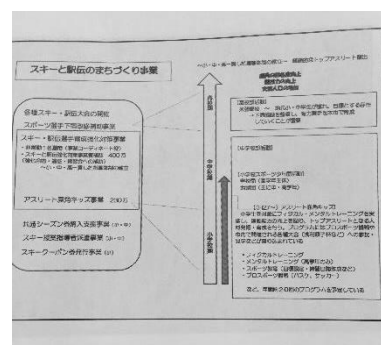
推進の背景として、環境整備、競技文化、全国大会やスポーツ合宿の誘致を通して「スポーツによる交流人口の拡大」や「地域活性化」につなげている。

(4) インターハイについて

インターハイについての経費、関係者人数に関して第64回全国高等学校スキー大会を例にしてみた。

経費 約4,700万円

関係者人数 約660人



2 鹿角市のスポーツ振興について

(1) 世界で活躍した選手の輩出

浅利 純子 氏 女子マラソン日本人初世界1位

- ・女子マラソンで日本人初の世界チャンピオン
- ・アトランタオリンピック代表
- ・秋田県立花輪高等学校卒業
- ・大阪国際女子マラソン初優勝
- ・世界陸上シュトゥットガルト大会女子マラソン優勝
- ・東京国際女子マラソン優勝
- ・現役引退後はダイハツ陸上部のコーチ就任



26 年 11 月 11 日

浅利 純子さんが来校、講演していただいた。

(2) 秋田25市町村対抗駅伝

平成 26 年 10 月から「秋田 25 市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン」が開催された。今年は横手市で第二回目が行われ、昨年よりも7チーム増え、36 チームが大会に出場した。鹿角市は昨年、総合3位だったが、今年はAチームが総合優勝と鹿角市の駅伝の強さを市民に見せることができた。

開催場所には市町村ご当地自慢の食べ物や屋台が出ており、とても賑やかな雰囲気駅伝のまち鹿角をアピールできた。



IV まとめと今後の課題

はじめは鹿角のスポーツ振興から始まった「スキーと駅伝のまち」づくり事業だったが、スキーの大会や駅伝の大会が全国規模になるにつれ、鹿角のスキー人口の拡大や競技力の向上につながっていることが分かった。

代表者 2B 菊池 竜太郎

指導者 加賀 誠幸

I テーマ設定の理由

鹿角市は、現在、3つのスキー場があり、以前には旧大湯スキー場も含め4つのスキー場で営業されていたことがあるなど、県内でも有数のスキーメッカである。また、国民体育大会等の全国規模の大会を数多く開催するなど鹿角市とスポーツの繋がりを考えていくとスキーは外すことのできない分野である。市としても「スキーと駅伝のまち鹿角」を掲げ、スキー大会誘致及び運営などをはじめ、様々な事業を展開している。

鹿角市とスキーに係るものを多角的に学習しながら、スキーをととした地域振興について考えていく。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 スキー場の視察及び調査
- 3 市内関係者からの講話
- 4 スキーに係るイベント調査
- 5 発表にむけて
- 6 発表会

III 実施内容

1 スキー場の視察及び調査

(1) 八幡平スキー場

標高約 1000m に位置し、周辺は大沼公園、御所掛温泉などがある。ゲレンデは、原生林で覆われており、自然の中に溶け込んでスキーを楽しめる。

県内で最も早い時期(11月下旬)に滑走を楽しめるとともに、シーズン後半の春先まで(5月GW)も滑ることができるスキー場である。コースは2コースあり、日ごろはファミリーゲレンデとして利用されている。アルペン競技大会も開催しており、シーズン中は特にジュニアレーサー対象の大会を開催している。春先には、国際公認大会(FIS)も開かれており、県外ス

キーヤーからも認知されているスキー場である。

(2) 水晶山スキー場

杉木に囲まれ、緩斜面と中斜面が大半を占めファミリー、ビギナー、ボーダーまで幅広い層が利用している。

また、金曜及び土曜日には市内で唯一のナイター営業を行っている。

山頂からは鹿角の郷の約半分(北側)区域を見渡せられるため、頂上付近には、テレビやラジオの中継施設がある。

(3) 花輪スキー場

初心者から競技コースまであるゲレンデ、森林に囲まれたクロスカントリーコース、3つのジャンプ台を備え、アルペン、ジャンプ、クロスカントリーを同一会場で開催できる全国でも稀有なスキー場である。

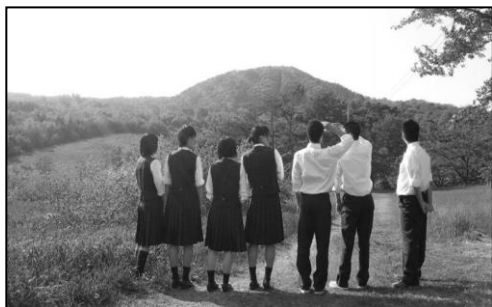
国民体育大会、全日本選手権大会、全国高校及び中学校大会、全日本学生大会等、数多くの全国大会を開催しており、県外にも広く知れ渡っている。市総合運動公園内にあるアリーナ、宿泊棟、レストランに隣接しているため、スキーを含めたスポーツ合宿地としても人気が高い。

大会や合宿などに伴って交流人口の増加や経済効果など、地域の活性化にも大いに繋がっている。

(4) 旧大湯スキー場

地元のファミリーゲレンデとして。また、以前は、全日本スキー選手権大会をはじめとする全国大会等を数多く行ったこともあるスキー場である。現在は、ゲレンデであったエリアも木や草が茂っており、スキー場であったことがわからないくらいの状況であるが、一部は、パー

クゴルフ場のコースとして。また、散策コースとしても利用されている。



2 市内関係者からの講話

(1) 鹿角市スポーツ振興課講話

鹿角市のスポーツ振興に係る政策として、「スキーと駅伝のまちづくり事業」がある。全国規模のスキー大会の開催、合宿誘致の他、スキークーポンの発行、共通シーズン券の購入支援、選手強化事業など、スキー人口の拡大や競技力向上はもちろん、スポーツ交流人口の拡大、地域活性化をねらいとしている。



(2) スキー場運営会社講話

花輪スキー場を運営している東京美装興業株式会社鹿角事業所長からスキー場運営に係る様々な観点について講話をしてもらいながらスキーと鹿角のつながりについて考えた。

- ①スキーに係るPR活動等について
- ②運営に伴う地域貢献、やりがいについて
- ③安全面について
- ④スキー大会の運営やそれに係る経費、スタッフ(役員、ボランティア)数について



3 スキーに係るイベント等について

様々なスキー大会やスキー教室等を開催しているが、地域とスキーが特に密接に係り合いながら実施しているものに「サマーノルディックスキー大会」がある。商店街を特設コースとしたローラースキー競技やサマージャンプ競技、地元特産品のサービスや伝統芸の披露など競技運営、商店街、行政が一体となって大会を開催している。

また、小学校低学年から現役の日本代表選手までが集っての競技会であり、スキー競技やスキーに係るイベントとしては全国的にも珍しい取り組みである。

IV 評価

鹿角市は、県内でも有数のスキー場施設があり、全国規模のスキー大会も開催できること、スキーに関連したイベントがたくさんあること、大会や合宿をとおして県内外から多くの人々が鹿角市を訪れていること、「スキーと駅伝のまち鹿角」を掲げ、地域の活性化をねらいとして行政としても様々な事業を行っていること、大会役員、競技運営ボランティア、おもてなし事業等、多くの地域住民がスキーに係っていることを知ることができ、郷土の特徴や魅力について再確認することができた。

代表者 3A 齊 藤 陽 平

指導者 佐 藤 亜紗美

はじめに

昨年度は花輪スキー場で第64回全国高等学校スキー大会が開催され、全国の高校生スキーヤーが頂点を目指し、日ごろの努力で培った力と技を競い合った。大会役員はじめ、市内の高校生や市民の多大なる協力でインターハイという国内でも大規模な大会が成功で幕を閉じた。今年度は全日本学生スキー選手権も控えており、鹿角市はスキーのメッカであり、スキーは市民にも非常に親しみのあるスポーツになっている。

I テーマ設定の理由

鹿角市は「スキーと駅伝のまち・鹿角」を掲げ、多くの全国規模大会の開催をはじめ、市民の誰もが生涯を通じて、いつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しみ、楽しめるスポーツ環境づくりと、生涯スポーツによる豊かな地域社会の実現のためのスポーツ振興事業を行っている。鹿角市には国内屈指の花輪スキー場があり、全国からスキーヤーが集う。スキーという分野から地域の活性を図り、鹿角市とスキーのつながりを調査し、よりスキーという競技を身近に感じてもらうためにこのテーマを設定した。

II 実施内容**1 スキーについて知る**

(1) スキー競技について種目別に理解する。

1) アルペンスキー

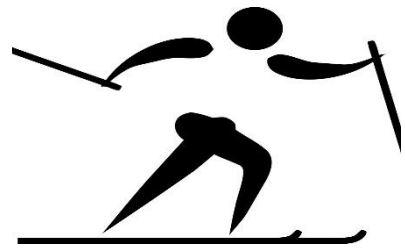
アルペンスキーは、ヨーロッパアルプス地方で20世紀になって発展したスキー技術である。アルペン (Alpine) とは、ドイツ語で「アルプスの」という意である。スキーの原型であるノルディックスキーから分化し、ビンディングの踵を固定することにより滑降に特化して発達したスタイルである。雪の斜面をターンを繰り返し、ときには直滑降をおり混ぜつつ滑る。斜面は斜度0度から40度以上までのさまざまな斜度で構成されるが、大半の愛好者は斜度10度ぐらいから20度ぐらいまでを好む。滑走速度は、レジャー目的では40km/h から 60km/h 程度までだが、高速系競技では100km/h を越える。大半の愛好者はスキー場で滑



走するが、自然の、整備されない山を登って滑り降りる山岳スキーの愛好者も多い。競技会の主な種目は回転、大回転、スーパー大回転、滑降である。

2) クロスカントリースキー

雪上に設営されたコースでスキーとスキーポールを用い、多様な地形での総合的走力を競う競技スキーであり、ノルディックスキーに分類される。スキー本来の用途である雪上での活移動手段から自然発生的に競技となったものであり、全スキー競技の原点といえる種目である。競技会の主な種目は5キロ、10キロ、15キロのインターバルスタート、30キロ、50キロのマススタート、スプリント、チームスプリント、スキーアスロン、リレーがある。

**3) ジャンプ**

ジャンプ台と呼ばれる専用の急傾斜面を滑り降りて(助走)、そのまま角度の付いた踏み切り台から空中に飛び出し、専用のスキー板と体を使ってバランスをとり、滑空する。その飛距離と姿勢の美しさ、「美しく、遠くへ跳ぶ」ことを競う競技。ヒルサイズはスモール、ミディアム、ノーマル、ラージがある。



4) ノルディック・コンバインド

ノルディックスキー・コンバインド (Nordic combined) は冬季スキー競技スポーツの一つで、クロスカントリースキーとスキージャンプという2つのノルディックスキー競技を組み合わせ、競う競技である。ノルディック複合とも言う。

クロスカントリーでは持久力、ジャンプでは瞬発力が必要で、総合的な運動能力が求められる。ヨーロッパではこの種目の王者を「King of Ski」(キング・オブ・スキー)と呼ぶ。冬季オリンピックの競技種目である。スキーの複合競技には、アルペン複合(回転と滑降の2種目を行う)もある。

(2) 映像を見て実際の動きを確認

アルペンスキーの疾走感と最速時速100キロを超えるスリル感を実際に動画で見て確認をした。クロスカントリースキーは走法が2つあるため、その違いを確認した。ジャンプは全国的にも有名であり、葛西紀明選手や高梨沙羅選手など世界トップクラスのジャンプを画面越しではあるが見て、その実力の高さを確認した。こうして実際に種目ごとに動画を見て確認することで、理解を深めた。

2 外部講師による講習

(1) 市のスポーツ振興について

鹿角市のスポーツ振興課より講習をしていた。鹿角市のスポーツ振興の政策を中心に全国規模大会の実際の運営費用や市の経済効果など貴重なお話をいただいた。鹿角市は「スキーと駅伝のまち」を掲げ、大会の誘致や選手強化を図っている。

(2) 花輪スキー場について

花輪スキー場を運営している東京美装興業株式会社鹿角事業所長からスキー場を運営する側としての施策や花輪スキー場の特徴などをお話いただき、花輪スキー場について内側から理解することができた。



3 鹿角市在住の現役選手

3セクションの鹿角市出身で現在も活躍する選手をまとめた。アルペンでは東京美装興業でオリンピック出場経験を持つ生田康弘選手、クロカンでは十和田高校卒業で、秋田ゼロックス所属の石垣寿美子選手、ジャンプでは東京美装興業の小山内佳彦選手、秋田ゼロックスの馬淵源選手などたくさんのトップ選手を輩出している。

4 全日本学生スキー選手権大会について

今期開催の全国大会は全日本学生スキー選手権大会である。通称インカレは第89回を迎え長い歴史と伝統のある大会である。大学日本一を決める非常にレベルの高い大会であり、鹿角市出身の選手も多数参加する。



IV まとめと今後の課題

毎年のように全国規模の大会が花輪スキー場で行われ、アルペン、クロカン、ジャンプが同一会場で行うことができるのは国内でも花輪スキー場のみというスキー界では貴重な存在である。そんな花輪スキー場を大会以外でもイベントなどで市内や県内、そして全国から集客し、もっともっとスキーに親しみを持ってほしいと感じた。このテーマを受講した生徒の中にもスキーは学校のスキー授業内でのアルペンスキーかクロスカントリーを行った程度で詳しくは知らなかったという生徒がほとんどであった。「スキーのまち」を掲げているが、実際には競技者やその関係者以外の市民にはまだまだスキーという競技が浸透していないのが現状である。「スキーのまち鹿角」として全国に名を馳せることが市全体の活性となるよう期待したい。

代表者 3B 高野 瑠菜

指導者 今川 浩子

はじめに

少子化が進む鹿角の現状をふまえ、どうすれば少子化の進行を抑えることができるか、私たちは真剣に考えなければならない。

そこで、鹿角地域の子育て支援の現状を知ることが、将来、子育てする上での参考になり、また、この研究活動を通して、私たち自らが子育て支援の対策を考える良い機会になると考えた。

I テーマ設定の理由

鹿角地域の子育て支援の現状について見聞きし、実際に子どもと触れ合ったり、子どもの遊びや、おやつなどを製作することを通して、自分が将来子育てをすることを視野に入れながら、今後の子育て支援のあり方について認識を深めることをねらいとした。

II 実施計画

- 5月12日 全校・講座ごとのオリエンテーション
- 5月26日 鹿角市の子育て支援の現状を調べる1（ネット検索）
- 6月9日 出前講座 鹿角市の子育て支援対策について
- 6月23日 鹿角市の子育て支援の現状を調べる2（ネット検索）
- 7月14日 口頭での中間発表会
- 8月25日 鹿角市の子育て支援についてまとめる。（模造紙に書く）
- 10月6日 幼児の伝統的おもちゃ：お手玉の製作
- 10月20日 鹿角の食材を使ったパンケーキの製作（6種）
- 10月27日 折り紙と描画
- 12月3日 まとめ 児童センターの業務、高校生のボランティア活動状況 他

III 実施内容

1 班編制

最初に班編制をした。

1年生が5名、2年生が9名、3年生が16名の計30名、学年のバランスを考え6班編制とし、リーダーも決めた。

2 講話

「どごさデモ」出前講座では、3名の職員が、最終日には児童センターの職員が来校し、現在の鹿角市の子育て支援の状況や施設の業務内容、高校生がボランティアで参加できる機会など詳しく説明していただいた。



3 鹿角市の子育て支援の現状を知る

次の6つの課題を各班で調べることにした。その後、調べた内容をレポートにまとめた。

- 1班 結婚・出産の現状
- 2班 児童センターでの事業について
- 3班 仕事と家庭の両立を支援する鹿角市の施策
- 4班 子ども未来センターについて
- 5班 子育てを支援する鹿角市の施策
- 6班 子育て支援センターの活動報告について

(1) 1班：結婚・出産について

☆鹿角市の結婚・出産の現状

●若い世代の未婚化・晩婚化が進み、子どもを持つ男女が減少している。

●鹿角市の出生数は平成24年度203人、平成25年度以降は200人に満たない。

☆鹿角市の結婚・出産の支援の現状

●出会いの場の提供として、あきた結婚支援センター登録料を全額助成している。出会い応援イベントを開催する団体に開催費用の一部を助成している。

●出産支援として、不妊・不育治療費の支援、妊産婦健診費の支援を行っている。

(2) 2班：児童センターでの事業について

☆開館時間 8:30～18:00

☆利用料 無料

☆対象者 0歳～18歳

☆事業 参加体験型遊び

●WAIWAIくらぶ

体力増進指導、様々なスポーツにチャレンジ

●まちなか児童クラブ

放課後や学校休業日の子どもの保育

(3) 3班：仕事と家庭の両立支援について

1) 認可保育園の充実、待機児童0人
多様な保育ニーズに対応

2) 一時保育を実施
一時的な子どもの預かり

3) 病後児保育
病気の回復期の子どもの保育

4) 放課後児童クラブ
子どもの放課後の活動場所を提供

5) 休日保育
休園日の日曜・祝日の一時預かり

(4) 4班、6班：子育て支援センターの活動について

<子ども未来センター>

☆開館時間 9:00～18:00

☆利用料 無料

☆対象者 0歳～就学前の子どもとその家族

☆事業

●コモッセDEくすくす

●NP講座 Shabell (しゃべる)

●子育てくすくす学校

「J&B子どもと一緒に」「知ってる？子育て最新情報」

●スペシャル☆くすくす

●くすくすサロン

●Cafeの日

●はじめてさんの日

●子育て相談 ●情報提供 ●うみたの

<かづのファミリー・サポートセンター>

☆開館時間 9:00～18:00

☆利用料 1時間400円

☆対象者 生後6か月～小学校3年生

(5) 5班：子育て支援の施策について

1) 地域の宝祝い金支給支援

第2子以降の子どもの出産に対し祝い金を支給

2) 産後・生後健診の助成事業

医療機関受診に係る費用の一部支給

3) こんには赤ちゃん事業

生後4か月までの乳児の家庭訪問

4) 児童手当支給事業

中学校修了前までの子どもがいる親等に支給

5) すこやか子育て支援事業

保護者の所得に応じて、保育料の助成

6) 教育費支援

第3子以降の小学校から高等学校までの教育費用

7) 福祉医療費給付事業

小学校までの子ども・一人親家庭の医療費負担の軽減

8) 家庭児童相談室設置事業

専門の家庭児童相談員を配置

<子ども・子育て支援新制度について>

平成27年4月からスタートした新制度として、

①入園決定とは別に支給認定を受ける。支給認定とは、子どもの状況に応じた教育・保育に関する給付のことである。

②保育料を所得税額ではなく、市町村民税所得割課税額を基に決定する。があげられる。

4 中間発表会

6班の調べ学習の内容を、発表し、模造紙にまとめた。



5 幼児のおもちゃ、おやつ製作



(お手玉の製作)



(パンケーキ製作)

6 折り紙と描画



(赤ちゃんのほっぺに参加)

7 夏季休業中の児童センターや児童クラブなどの施設で、ボランティア活動を行った。

IV まとめと今後の課題

今回の研究を通して、少子化の現状や問題点、鹿角地域の子育て支援の現状について詳しく知ることができた。将来、子育て世代になる私たちは、さらに地元の施策について知る必要がある。

今後は、少子化ストップ政策や必要な子育て支援サービスについて考えていきたい。

代表者 3A 木村 香菜

指導者 茂内 芳樹

はじめに

働くことの意義を理解するために、身の回りの大人に仕事のやりがいや苦勞について聞いてみようと思いました。

I テーマ設定の理由

秋田県は人口減少率と高齢化率が高く、国内を見ても、世界的にも高齢化が進んでいます。福祉を通して課題を考え、解決策を探ることで社会に貢献したいと思い、テーマを設定しました。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 求人票研究
- 3 職業研究をしよう
- 4 オープンキャンパスに参加しよう
- 5 介護福祉士になるには
- 6 Web ページから福祉のニュースを調べよう
- 7 鹿角微笑苑施設訪問
- 8 ケアホームおおゆ施設訪問
- 9 あかしあの郷施設訪問
- 10 まとめ



III 実施内容

1 全体オリエンテーション

講座ごとのオリエンテーションでは、自己紹介として、本講座を選んだ理由と、期待することを話し合いました。



2 求人票研究

昨年度求人票より、医療法人寿光会鹿角微笑苑、社会福祉法人はなわ福祉会、社会福祉法人小坂ふくし会本部あかしあの郷を調べました。

また、比較として、ニプロファーマ株式会社（製造技能職）、株式会社ホテル鹿角（ゲストアテンダント）の求人票も調べました。

3 職業研究をしよう

児童福祉司、社会福祉士、介護福祉士、医療ソーシャルワーカー、ケースワーカー、介護職員、心理カウンセラー、ケアマネジャーの仕事内容や将来展望について調べました。

4 オープンキャンパスに参加しよう

秋田看護福祉大学福祉学科の学校案内を取り寄せ、オープンキャンパス参加の事前準備をしました。

5 介護福祉士になるには

なるには BOOKS「介護福祉士になるには」（1章 ドキュメント、2章 介護福祉士の世界、3章 なるにはコース）を読み、介護福祉士の存在の重要性への理解を深めました。

6 Web ページから福祉のニュースを調べよう

新聞社などの Web ページから、福祉に関する最新の事例を調べ、新聞名、記事の発行日、内容と、内容に対する自身の考えをまとめました。

7 微笑苑施設訪問

介護老人保健施設とは、介護サービスの他に、医療・看護サービスとして、診察・投薬・注射・処置・検査等も行っています。

また、施設内に職員用子供施設（託児所）があることも特徴です。

8 ケアホームおおゆ施設訪問

同じグループに、わかば保育園と大湯保育園があり、交流会が積極的に実施されています。

定員 30 名のユニット型個室がある。専任のスタッフを配置され、使い慣れた家具や備品を持ち込んで、できる限り在宅に近い環境を維持できる。

9 あかしあの郷施設訪問

社会福祉士の方から話を聞くことができました。社会福祉士とは、利用者と施設の間で、相談に応じたり、連携及び調整を行います。

社会福祉士資格は、国家資格ですが「名称独占」の資格です。社会福祉士資格をもっていなければ、上記の業務につけないということはありません。しかし、社会福祉士資格をもっていることは、専門職としての水準の高さを表すものであります。

IV まとめと今後の課題

施設訪問では、従業員から仕事の魅力、やりがい、大変なところ、苦勞する点、なぜその仕事を選んだか、仕事を考えるうえでのアドバイスを聞き、キャリアを考える参考になりました。



しかし、福祉にかかわる問題点を見付け、その解決策を考えることまで深めることができませんでした。今後の取り組みとして、上級学校の模擬授業を受けたりすることで知識を身に付け、学問として考察できるようになりたいと思いました。

最後に協力してくださった方々、発表を聞き、読んでくださった人たちに感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



代表者 3C 橋本 溪吾
指導者 吉成 徹

はじめに

本校の校歌には「資源も豊か」という一節がある。鹿角地区は、古くから鉱業が盛んだったため、有力者の領地争いも起こったほどである。

I テーマ設定の理由

鉱業生産は、足尾銅山や神岡鉱山の例で知られるように環境問題が発生しているところがある。足尾銅山では煙害によって木が枯れて洪水を引き起こしたり、鉛化合物などの有害物質が流出する被害が起こった。岐阜県の神岡鉱山ではカドミウム化合物が流出し、イタイイタイ病が発生している。

鹿角郡小坂町では、アカシア祭りが毎年6月に行われているが、これは、鉱山の煙害に強いニセアカシアを植栽したことによる¹⁾。つまり、鹿角地域でも煙害はおこったのだろう。

煙害は、銅の精錬によって二酸化硫黄が発生し、大気中で酸性度が増加して、雨に溶け込み、酸性雨となって降ってくることでおこるとされる。

そこで、私たちは鹿角地区の鉱山と公害について調べてみようと考えた。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 調査と学習
 - 2-1 鹿角の鉱山について
 - 2-2 銅の精錬について
 - 2-3 煙害について
- 3 実験
 - 3-1 実験計画の立案
 - 3-2 二酸化硫黄の発生
 - 3-3 pHの測定
- 4 考察
- 5 まとめ

III 実施内容

- 1 オリエンテーション
- 2 調査と学習

2-1 鹿角の鉱山について

概要

尾去沢鉱山1598年(白根(小真木鉱山)として)発見
小真木鉱山1598年発見(尾去沢鉱山の支山となる)
不老倉鉱山1615年発見
小坂鉱山 1895年発見



Figure 1 鹿角の主な鉱山

★が鉱山。北から、小坂、不老倉、小真木、尾去沢の各鉱山である。

2-2 銅の精錬について

概要

1900年頃からつぎのような精錬方法がとられていた。

1. 採鉱(鉱石を掘り出す)
2. 選鉱(銅を多く含む部分を選び出す)
3. 自溶炉(酸素と反応させ、硫黄分を気体にする。銅の割合65%)
4. 転炉(酸素を吹き込み硫黄分をさらに除く。銅の割合99%)
5. 精製炉(ブタンガスを吹き込み酸素を除く。銅の割合99.3%)
6. 電解精錬(銅を水溶液にして、電流をながす電気分解をする。銅の割合99.99%)

鉱石は銅と鉄と硫黄の化合物の割合が多く、3の自溶炉と4の転炉で二酸化硫黄が発生する。4)

2-3 煙害について

尾去沢鉱山の煙害は尾去沢地内、隣接の花輪地区・八幡平地区に及んでいた。他方小坂鉱山の鉱煙は毛馬内・大湯・錦木・柴平地区に及び、小坂町周辺一帯にまで被害を及ぼしていた。1)

1900年小坂鉱山では自溶精錬が確立された。
 1901年栃木県の足尾銅山の銅毒問題が取り上げられた。
 1906年小坂銅山の煙害が社会的な問題となり、周辺十カ町村に被害を及ぼしたとして騒がれるようになった。
 2)

このように、鹿角地区でも煙害が生じていたが、銅山労働者も被害世帯にいたことなどから、大規模な訴訟にはならなかったようだ。1)2)

3 実験

(1) 計画の立案

目的 銅の精錬で排出される二酸化硫黄から酸性雨を再現することを目的にする。

方法 二酸化硫黄を発生させて捕集し、次の4通りの保管の仕方をする。

- ① 水を加えて日光の当たる部屋に置く。
- ② 水を加えず日光の当たる部屋に置く。
- ③ 水を加えて暗室に置く。
- ④ 水を加えず暗室に置く。

自然界では、①の条件に近いと考えられたが、比較のために②③④も実施することにした。

これを放置した後でpHを測定する。pHが小さいものは、酸性度が上昇したことを示す。

(2) 二酸化硫黄の発生と捕集

二酸化硫黄は、刺激臭(花火のにおい)のする毒性の気体であるため、化学室のドラフトチャンバーの中で発生と捕集の操作を行った。

- 1) 二また試験管に亜硫酸水素ナトリウムを菓さじで約2 gと1 mol/Lの硫酸を5 mL加え、二酸化硫黄を発生させた。ゴム栓とゴムチューブで冷凍保管用ポリエチレンバッグに導入した。



Figure 2 二酸化硫黄発生装置

- 2) ①③の水あり条件は、洗瓶から脱イオン水を約1 mL入れてから、②④の水なし条件はそのままチャックを閉じた。①②の日光に当てるバッグは、日光に当たる物理準備室のテーブルに放置し、③④は暗室に114日間保管した。

(3) pHの測定

- 1) ドラフトチャンバーの中でポリエチレンバッグを開き、中に水を約50 mL入れて振り混ぜ、ビーカーに注ぎだした。
- 2) pHメーター(堀場製作所 B-112)でpHを測定した。

4 結果と考察

結果は表1のようになった。

表1 114日間放置した二酸化硫黄の水溶液のpH
 (2ないし6測定点の平均値)

日光にあてる		暗黒条件	
水あり	水なし	水なし	水なし
5.25	5.60	5.50	5.48

操作の間違いによって測定点数が少なくなりましたが、①の水を加えて日光の当たる部屋に置いたもののpHが小さくなっているといえそうである。

二酸化硫黄は、セ氏20度で水100 mLに8.5 mL溶け、酸性度も $pK_a=1.81$ と非常に小さいため、少量が雨に溶けただけで酸性雨になると考えられる。5)。酸性雨はpHが5.6以下の降水であるため、二酸化硫黄がそのまま溶けても酸性雨になったものと考えられる。

IV まとめと今後の課題

今回の調査で、鹿角地区でも公害がおこったことがわかった。酸性雨の研究実験は、はっきりした結果が出なかった。

公害は、開発と環境への配慮のバランスがとれないときにおこってしまう。今までの知識の蓄積をもとに、バランスのとれた開発を行ってほしいし、私たちも見守っていきたい。

参考文献

- 1) 小坂町ホームページ
<http://www.town.kosaka.akita.jp/>
- 2) 鹿角市史第4巻
- 3) 秋田県史第6巻
- 4) 酒匂幸夫, “銅製錬技術の系統化調査”, 独立行政法人国立科学博物館
<http://sts.kahaku.go.jp/diversity/document/system/pdf/020.pdf>
- 5) JXホールディングス編, “銅ができるまで”, JXホールディングスIR情報
http://www.hd.jx-group.co.jp/ir/investor/pdf/knowledge_data01.pdf
- 6) 化学便覧改訂第3版

【人間・環境・福祉】 21 ペットボトルキャップの行方と十和田高校

代表者 3B 安保 拓真

指導者 平 俊太郎

はじめに

環境問題が色々なところで注目されていますが、身近に行うことのできる取り組みとしては分別することなどがあるように思います。十和田高校では、各教室でペットボトルキャップの回収を行っています。これがどのくらい環境に貢献しているかというところに注目し、環境についての理解を深めることのできるテーマにできないかと考えました。

環境に対する貢献度を調べることは、簡単ではありませんでした。そこで、普段の学校生活の中でできる調査がないかと考え、次のようにテーマを設定することにしました。

I テーマ設定の理由

各教室で集められたキャップは、生徒玄関にあるボックスにまとめられ、回収されていきます。このキャップがどこへ運ばれ、何になっているかを調べようと思いました。また、各教室で分別されているはずのペットボトルキャップが、どのくらい徹底されているかを調べ、学校全体の分別に対する意識度を調査してみることも面白いと思い、このようにテーマを設定しました。

II 実施計画

1. オリエンテーション
2. 鹿角市出前講座「どごさデモ」
～環境の現状と対策～
3. 秋田エコプラッシュ見学
4. 分別状況抜き打ち調査①～⑨

III 実施内容

1. オリエンテーション

はじめに、メンバーの顔合わせと共に、どのような内容にしたら面白いかということを考えました。ところが、鹿角市の現状も何もわかっていない状態では何もアイデアが浮かばなかったため、鹿角市の出前講座から何かヒントを得ようということになりました。

2. 鹿角市出前講座「どごさデモ」
～環境の現状と対策～

5月26日に鹿角市役所の方から、鹿角市のごみの現状についての講話をしていただきました。ここで大まかな現状について知ることができました。

鹿角市のごみ排出量の現状を、以下にまとめました。率直な感想として、鹿角市のごみ排出量が秋田県の平均を上回っていることについて、意外な印象を受けました。

◆鹿角市内の年間ごみ排出量(H24年度)

14,056 t (一人一日あたり 730 g)

※秋田県の平均 一人一日あたり 675 g

ペットボトルキャップの回収を鹿角市で行うに至った経緯については、焼却処分よりもリサイクルした方が二酸化炭素の排出量が少ないとの結果が出たためということでした。このような環境に関わる取り組みを考えるに当たって、「お金だけで考えてはいけない」という意識は非常に重要であり、「どれだけの二酸化炭素が排出されるか」ということも考慮して話し合うことが大切だと知りました。これは、これからの社会を担う私たちにとって非常に大切な視点だと思いました。さらに、リサイクル工場でのエネルギー消費だけでなく、輸送による消費など、輸送先までの距離によっても判断が分かれるそうです。そのため、近くに資源を回収できる業者があるかどうかにもよるそうです。

回収したペットボトルキャップの行方については、能代市の秋田エコプラッシュに運ばれていることが分かったので、見学に行くことにしました。

3. 秋田エコプラッシュ見学

出前講座を受け、能代市にある秋田エコプラッシュに見学に行ってきました。ここでは、回収したプラ製廃棄物がどのように処理され、新たな製品として再生しているかということについて知ることができました。

回収された廃棄物は、四角いブロック状にされて運ばれてきます(図1)。これらを工場ではばらにし、原料として利用可能なものを選別します。ベルトコンベアで運ばれていく中に、目的のペットボトルキャップを見つけることができました(図2)。その後、石炭灰や添加物を加え、ペレットという粒状の原料に作り替えられます(図3)。これを加工・成形して、目的の製品にしているとのことでした。製品には、ジオプール(図4)やエコプラU字溝といったものがありました。特にジオプールは、大型ショッピングセンターの駐車場などに埋設する雨水貯留槽になるそうです。

ちなみに、運ばれてくる廃棄物によって臭いも違うそうです。私たちが行ったときは、しょう油のような臭いがしていました。また、地域によって運ばれてくる廃棄物の汚れの度合いも違うようで、東北地域はいい方だそうです。



図1. ブロック状にされた廃棄物

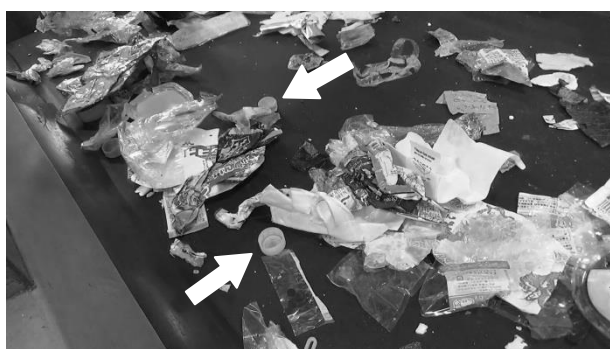


図2. 破砕された廃棄物



図3. 原料となるペレット

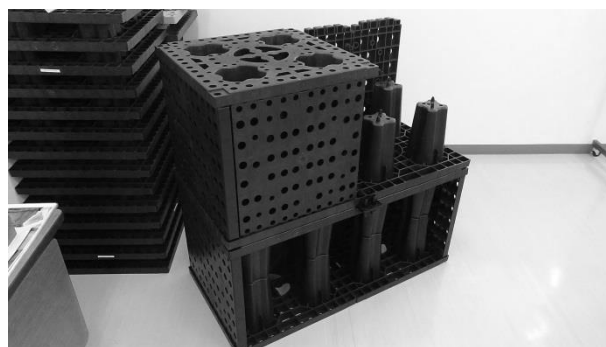


図4. ジオプール(埋設型雨水貯留槽)

4. 分別状況抜き打ち調査

十和田高校の分別に対する意識度として、校内のペットボトルの分別状況を調査しました。結果は次のようになりました。

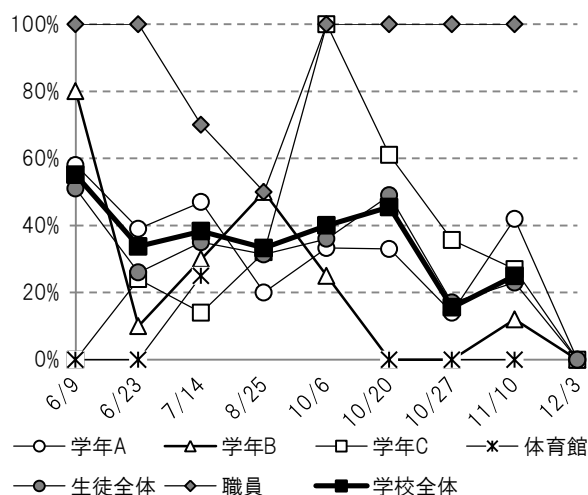


図5. ペットボトル分別状況 [%]

結果は学年や場所ごとにまとめてありますが、学年はあえて伏せてあります。これは結果を割合で表したもので、本数によらず結果が出てしまうところが欠点でした。また、ペットボトルそのものが捨てられていないところは、空白としています。

職員室や事務室よりも教室の数が多かったため、学校全体の結果は生徒全体とほぼ同様の変化となりました。学校全体として、分別に対する意識は高いとはいえ、40%に満たない程度が分別されているという結果となりました。

IV まとめと今後の課題

鹿角市が秋田県の平均よりも多くのごみを出していることや、私たちの分別に対する意識が思ったよりも低かったことなど、今後の意識を高めるための工夫と活動について考えたいと思いました。

代表者 3B 木村 杏奈
指導者 石川 弘美

I テーマ設定の理由

鹿角は少子高齢化が進んでいる。その大きな原因の一つに、若者の流出が考えられる。実際、十和田高等学校でも、高校卒業後、進学や就職で鹿角を離れる人が半数以上いる。このまま進むと、若者だけでなく人口がますます減少し、鹿角市が衰退していくと思われる。

そこで、私たちは少しでも若者が鹿角に定着するように、何か提案できないかと考え、このテーマを設定した。

II 実施計画

- 1 「鹿角未来アンケート」の作成
- 2 アンケートの実施
 - ・十和田小学校（4年生～6年生）

<内容>

- 1 鹿角は好きですか？（理由）
- 2 将来、何になりたいですか？
- 3 鹿角で働きたいですか？（理由）
- 4 鹿角にずっといたいですか？（理由）
- 5 鹿角にあったらいいと思うものは何ですか？

- ・十和田中学校、尾去沢中学校、花輪第一中学校、八幡平中学校（3年生）

<内容>

- 1 あなたは将来、鹿角に残りたいと思いますか？（理由）
- 2 鹿角は若い人の数が年々減少しています。その理由はなぜだと思いますか？
- 3 あなたは、鹿角に住み続けるためには何が必要だと思いますか？
- 4 「鹿角」と言ったら一番に何が思い浮かびますか？

- ・十和田高校（1年生～3年生）

<内容>

- 1 あなたは将来鹿角に残りたいと思いますか？（理由）

- 2 鹿角で若者が減っているのは、なぜだと思いますか？
- 3 鹿角の魅力を市外の人に伝えるとしたら、何を話しますか？
- 4 鹿角に足りないものは何だと思いますか？
- 5 将来、鹿角にどうなってほしいですか？

・一般の人（十高祭の来校者）

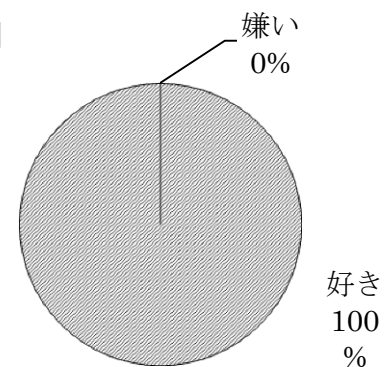
<内容>

- 1 鹿角の魅力は何だと思いますか？
- 2 鹿角には若者が必要だと思いますか？（理由）
- 3 鹿角に若者が住むには、どんな物やサービスがあれば良いと思いますか？
- 4 自分の子供に鹿角に残ってほしいと思いますか？（理由）

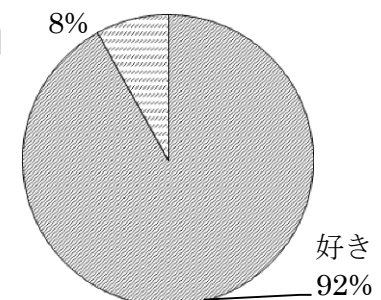
III 調査・研究内容

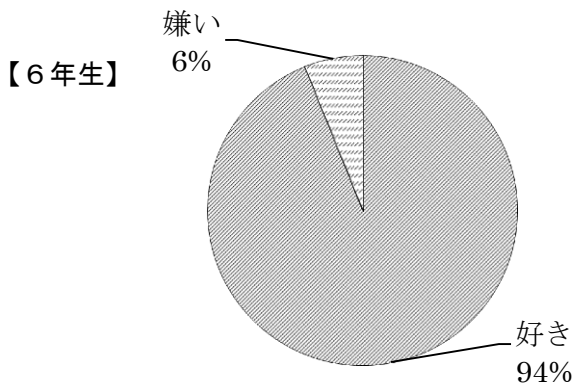
1 鹿角は好きですか？（小学生）

【4年生】

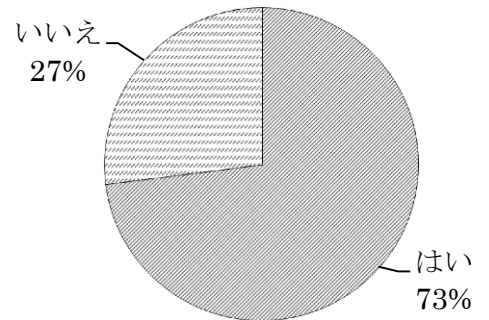


【5年生】

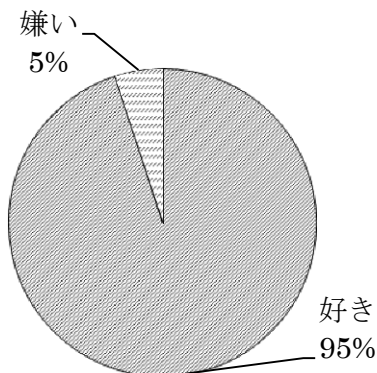




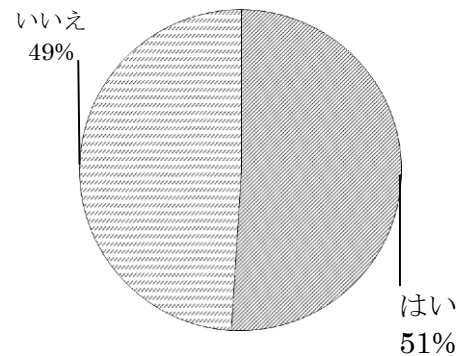
【5年生】



【小学生全体】



【6年生】



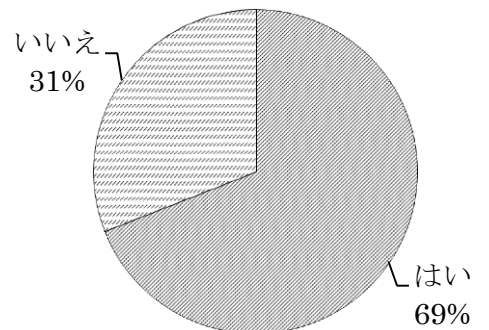
鹿角が好きな理由

- ・自然が豊かである
- ・おいしい食べ物がある
- ・地域の人優しいから
- ・生まれた所だから

結果

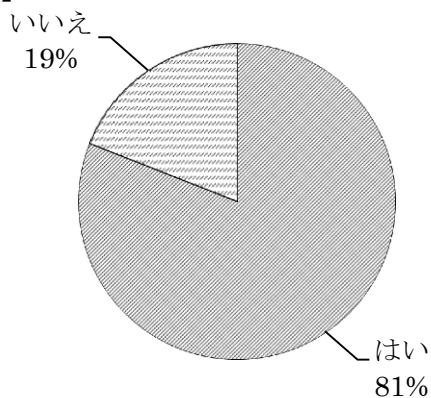
小学生は鹿角が好き！

【小学生全体】



2 鹿角にずっと居たいですか？(小学生)

【4年生】



鹿角に居たい理由

- ・生まれた所だから (家族が居るから)
- ・自然が豊かだから
- ・安全だから

鹿角に居たくない理由

- ・都会に行きたいから
- ・色々な人とふれあいたいから

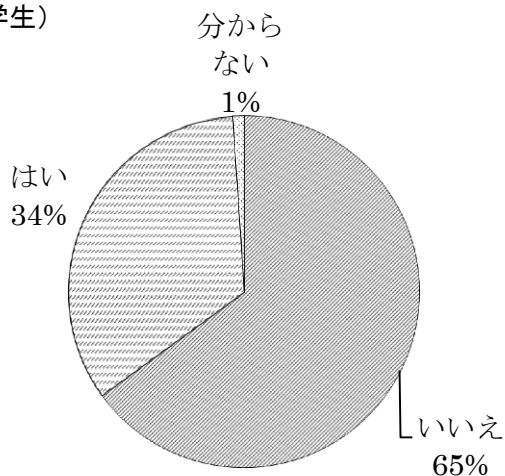
質問1, 2の考察

小学生のほぼ全員が鹿角が好きである。しかし、学年が進むにつれて「ずっと居たいと思っている数」は減っていることが分かる。

これは質問3の「鹿角で働きたいですか？」に対して、「はい」と答えている割合が4年生は8

3%、5年生は71%、6年生は41%と減っていることと比例している。

3 あなたは将来、鹿角に残りたいと思いますか？ (中学生)



いいえの理由

- ・仕事がないから (21%)
- ・他のところで仕事がしたい (10%)
- ・娯楽施設、ショッピングモールがないから。(8%)

その他

- ・いろいろなところで経験をして視野を広げたいから
- ・鹿角を出て夢を実現させたいから

はいの理由

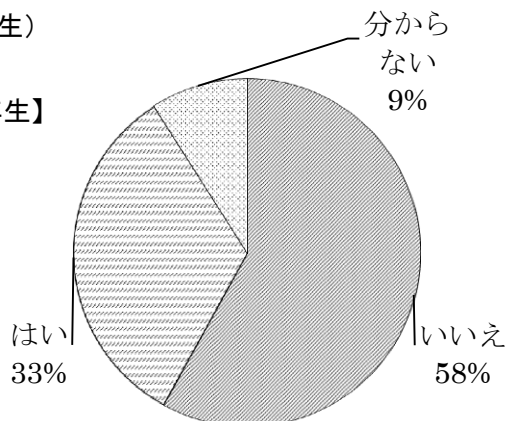
- ・生まれ育った所だから (23%)
- ・自然が豊かだから (13%)
- ・鹿角が好きだから (7%)

その他

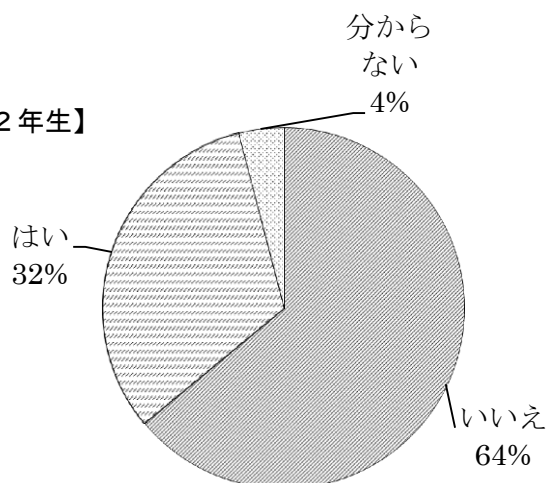
- ・暮らしやすいから
- ・鹿角・家族に恩返しをしたい

4 あなたは将来、鹿角に残りたいと思いますか？ (高校生)

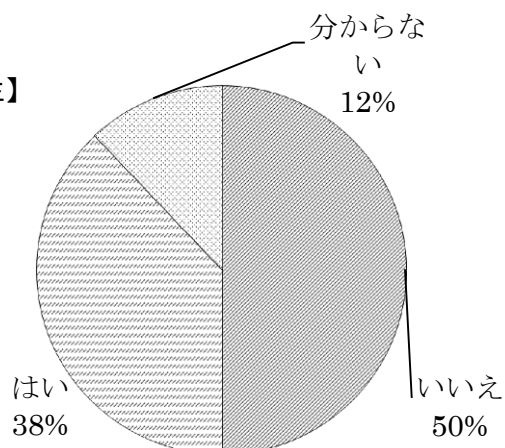
【1年生】



【2年生】



【3年生】



いいえの理由

- ・働ける場所が限られているから
- ・都会に行きたいから
- ・何もないから

その他

- ・不便なところがたくさんあるから
- ・夢があるから
- ・大型のショッピングセンターがないから

はいの理由

- ・自然が豊かで暮らしやすいから
- ・鹿角が好きだから
- ・地元だから

その他

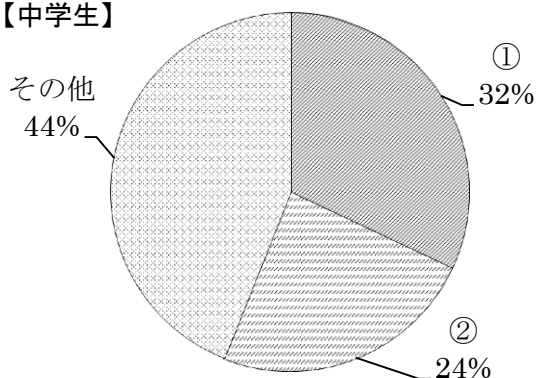
- ・親を養うから。
- ・少しでも若い人増やしたいから
- ・県外でやりたいことがないから

質問3, 4の考察

将来、鹿角に残りたいと思っていない割合が高校生は中学生よりも少ない。特に高校3生は少ない。逆に、分からないと答えた割合が高校生になると増える。特に、高校3年生は12%もいる。これは、3年生になると自分の将来について現実味が増して進路について真剣に考え、悩み始めている表れである。

5 鹿角で若者が減っているのはなぜか？(中・高生)

【中学生】



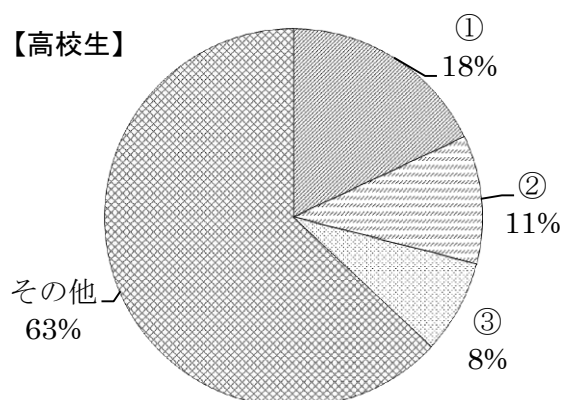
① 都会に行く人が増えたから。

② 鹿角に仕事がないから。

その他

- ・ 娯楽施設、ショッピングモールがないから。
- ・ 田舎だから（不便だから）。

【高校生】



① 就職先がないから。

② 都会に出て行く人が多いから。

③ 何もないから。

その他

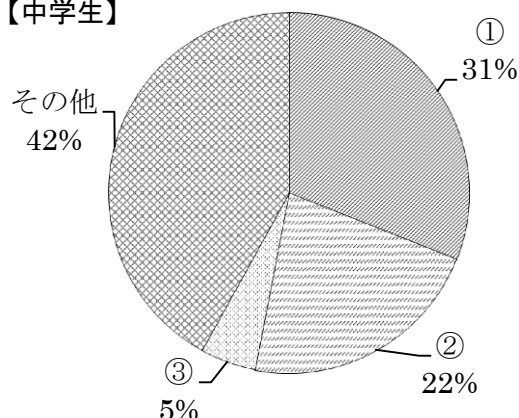
- ・ 娯楽施設がないから。
- ・ 大学や専門学校がないから。
- ・ 若者を受け入れやすい体制がないから。

質問5の考察

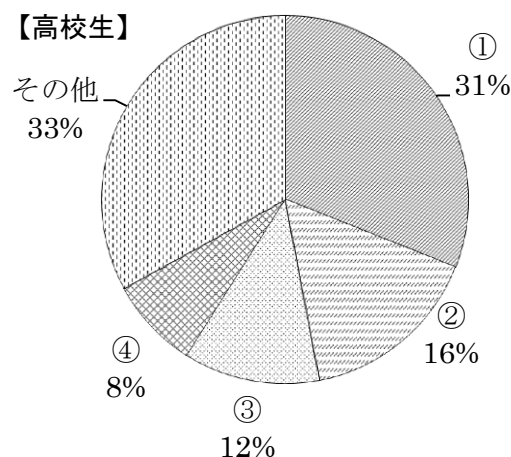
将来、鹿角に残りたいと思っていない割合が高校生は中学生よりも少ない。特に高校3年生は少ない。逆に、分からないと答えた割合が高校生になると増える。特に、高校3年生は12%もいる。これは、3年生になると自分の将来について現実味が増して進路について真剣に考え、悩み始めている表れである。

6 鹿角にひつようなものは？(中・高生)

【中学生】



【高校生】



質問6の考察

小学生も中学生も高校生も鹿角には若者が遊べる娯楽施設が必要であると答えている。ゲーム機やスマホで遊べるが、みんなで集まって遊べる場所も必要であると考えているようだ。

また、「若者が鹿角に残らない理由」や「若者が減っている理由」に「職場がない」ことが挙げられていたが、必要なものにあまり出てこないのは、職場はあるけれども自分が働きたいと思う職種がないということだろうか。

一般の方のアンケートからの考察

「伝統や文化遺産を引き継ぐ為の人材が必要であるから」や「鹿角を活性化させる必要があるから」、「若者がいないと生活を支える基盤がなくなるから」などの理由から若者は絶対必要であると考えている。しかし、「自分の子供に鹿角に残ってほしいか？」という質問に対して、60%は

残ってほしいと答えているが「一度外に出て、他の地域の良い所を吸収して帰って来てほしい」や「好きな道を進んでほしい、特別こだわらない」などの回答もあった。

また、若者が定住するために必要なものとして、職場（仕事）・娯楽施設・ショッピングモールを挙げているのは小・中・高校生と同じである。その他に、若者の要望を聞くこと、経済的支援を含む若者達の「頑張りたい」を応援する物心両面での、サポートや社会基盤を挙げていた。この点について、大人も若者の定住について考えてくれていることも分かる。

IV まとめ

どの世代も、「自然がとても豊かである」「食べ物おいしい」「毛馬内盆踊りや花輪ばやし、ストーンサークル等の伝統文化や史跡がある」「地域の人々が優しい」等、鹿角の良さや魅力を十分に分かってはいるが、将来的に鹿角に残りたいと思っている小・中・高生が、少ないのが現実である。また、その理由として働く場所（職種）・大型の娯楽施設やショッピングモール等がないことを挙げている。しかしこれらは、今まで何年も課題として挙げられていたことですぐに解決できる問題ではないと思われる。

<提案（行政にお願いすること）>

- 1 高校生や若者の意見を積極的に発信する機会を設ける。
- 2 若者に向けたサービスをもっと増やしてもらう。
- 3 農業の良さをもっと若い人に伝える（どの世代もアンケートに農業についてほとんど記載がなかった）。
- 4 鹿角市が行っているさまざまな事を高校生（若者）向け専用の広報誌を作り宣伝する。

<提案（高校生ができること）>

- 1 鹿角の良さや魅力を県内外の人達に発信する（できれば、小・中・高連携しながら）。
- 2 鹿角で行われているイベントに積極的に参加する。
- 3 高校生（若者）向けの広報誌作成に協力する。

ふるさと教育（かづの学）公開研究発表会 スケジュール

SHR		各教室（8:35～8:45）			
移動		第1体育館入場（8:45～8:55）			
打ち合わせ		講座別最終打ち合わせ（8:55～9:15）			
説明		日程について（9:15～9:20）			
開会式		校長、生徒会長あいさつ（9:20～9:30）			
発表	No.	テーマ	担当	開始時刻	備考
口頭発表	1	鹿角のむかしがたり	吉岡	9:30	実演あり
	2	鹿角の神社	小林	9:45	
	3	鹿角地域の祭りについて	土門	10:00	
	4	鹿角古代紫根染・茜染研究	奥山	10:15	
	5	かづの紫根染・茜染実習	菅原	10:40	展示あり
	6	鹿角発ブランド農産物の地域展開（淡雪こまち）の生産構造と流通形態	岩谷	10:55	
	7	お土産品から考察する鹿角	飯塚	11:10	
	8	小坂鉄道レールパーク探究～レールパークの魅力を探る～	伊藤	11:25	展示（写真）あり
	9	スキーと駅伝のまち鹿角のルーツを探る	石井・木藤	11:50	
	10	スキーのまち鹿角の活性化	佐藤亜	12:05	
	11	鹿角地域の子育て支援の現状を探る	今川	12:20	実演あり
講評	口頭発表の講評（12:35～12:45）				
昼食12:45～13:30 ポスター発表自由閲覧13:30～13:50					
発表	No.	テーマ	担当	開始時刻	備考
実演	12	毛馬内盆踊りの笛と太鼓の研究	濱松	13:50	
ポスター発表	13	郷土の方言研究～「方言かるた」鹿角ヴァージョン～	齊藤	以下の時刻に一斉開始予定です。 14:05 14:20 14:35	
	14	秋田の三大盆踊りを比べて	佐々木		
	15	鹿角のブランドの経緯と可能性の模索について	渡邊		
	16	統計からみる十和田湖観光の歴史	畑山		
	17	鹿角にある店舗のホームページ作成・紹介	小笠原		
	18	鹿角市におけるスキー振興について	加賀		
	19	鹿角の福祉	茂内		
	20	鹿角の公害 -主に煙害について-	吉成		
	21	ペットボトルキャップの行方と十和田高校	平		
	22	鹿角に若者が定着するには？	石川校長		
講評	実演発表・ポスター発表の講評および全体講評（14:55～15:05）				
閉会式	生徒会長、校長あいさつ（15:10終了）				

○公開研究発表会(平成28年1月19日)

【開会式】



【口頭発表】



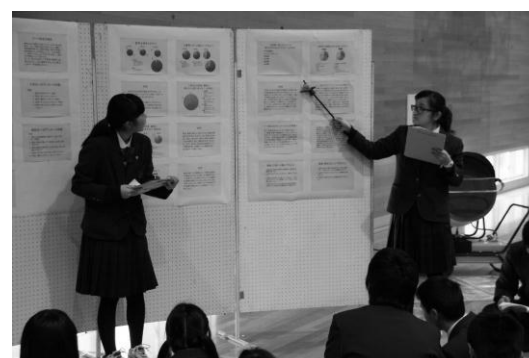
【展示】



【演奏】



【ポスター発表】



【閉会式】



○公開研究発表会 生徒のアンケートから

- 1 発表会を通してわかったこと
 - ・中学校の頃からストーンサークルのことや地元について調べてきたつもりだったけど、その時以上に詳しく調べられていたし、今まで興味がなかったテーマのグループの話を聞けて、より鹿角について知ることができた。
 - ・どこのテーマも様々な発表の仕方で伝えようとするのが強く伝わった。
 - ・調べた結果だけでなく、感想を述べていて良かった。
- 2 発表のしかたをみて気が付いたこと
 - (1) 口頭発表
 - ・昔話を実際に語ったり、お手玉や手遊びしたり、ただ聞くだけでなく、変化があって聞きやすいグループがあって良かった。クイズは意外で面白かった。
 - ・すべての班が分かりやすい写真と説明があって良かったけれど、半分くらいの班が早口で話したり、せっかくの分かりやすい写真などを少ししか見られなかったのは残念だった。
 - ・ハッキリと言わず聞き取れるように話す。全てはできなくても、重要な部分を説明していた。
 - (2) 実演発表・ポスター発表
 - ・発表者の表情が見られて良かった。
 - ・字が小さくて見づらい場所があったが、そこを説明で補っていたのでよかった。
 - ・ポスターを指しながら説明できていて良かったと思う。みんなが話しているので、もう少し声を出した方が良かったと思った。
- 3 資料（プレゼン、ポスター、実演）をみて気が付いたこと
 - ・字だけではなく、グラフや図、写真があるとわかりやすかった。
 - ・毛馬内盆踊りのことになると、自分たちと似たような記事があったけれど、それぞれ違うようにバラけていて、こういう考え方もあるんだと思った。
 - ・説明の文章が長いのは、箇条書きにしてまとめるともっと伝えたいことが明確になると思った。ポスターも枚数が限られているためか、文字が小さくなり見づらくなってしまった。
- 4 感想と発展（感想や新たに自分に芽生えた研究したいという想いなど）
 - ・ポスター発表の鹿角に若者が定着するには？のアンケートにあった「職場がないから」という答えに、どんな職場があってほしいと思っているんだろうと思った。
 - ・自分がもう知っている事でも詳しく見ることができて、ふるさと鹿角の良さを再確認することができた。来年は鹿角の方言について詳しく調べたいなと思った。
 - ・今回は福祉のことについて調査しました。ただ施設を訪問し話を聞くだけでなく、どうしたら独居老人が減るか、一人暮らしの人のためにできることなど、私たちにはできることがまだまだあると思った。私は福祉についてもう少し詳しく調べたいと思った。

○公開研究発表会 一般参観者のアンケートから

- 1 発表のしかたについて
 - ・クイズを取り入れたり動画で紹介していたのは良かった。
 - ・聴き手にもっと伝わるように声を大きくしてくれたら、さらに素晴らしかったと思う。
- 2 資料について
 - ・文字の大きさは見やすくてよい。背景色と文字色のマッチングはもう少し吟味してもよいと思う。
 - ・スライドを進めるタイミングが早い。
 - ・パワーポイントに文字が多すぎる傾向にある。
- 3 全体を通しての感想
 - ・多分野に興味を持って研究され、大変頼もしく感じた。ふるさとに愛着と誇りを感じて学んでいる高校生の熱い思いをうれしく感じる。
 - ・生徒の興味・関心に支えられた学びとして継続していただきたい。
 - ・地域の方々、保護者の方々にもっと参観してもらえたらと思う。

編集後記

前年度より開始したふるさと教育「かづの学」も2年目となりました。今年度は、校長を含め22名の教員が各1講座を担当し、多彩な研究を行うことができました。1年間の活動の集大成として、このたび研究集録を作成いたしました。キャリア教育についての一資料として御活用いただければ幸いに存じます。

本校のふるさと教育事業に際し、御協力いただいた関係機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

ふるさと教育実行委員会

片岡 俊仁	岩谷 宣行	伊藤 一寿	渡邊 一郎	吉成 徹
今川 浩子	土門 祐子	濱松 崇子	茂内 芳樹	小林 稔幸
飯塚 俊介	石井 智子			

平成27年度 ふるさと教育「かづの学」研究集録 第2号

平成28年3月1日 発行

編集者 秋田県立十和田高等学校 ふるさと教育実行委員会

発行者 秋田県立十和田高等学校 校長 石川 弘美

電 話 0186-35-2062

FAX 0186-35-2272
